琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　沖縄関係

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43235

別途連絡済み
（古屋副長官
山野局長、
末野秘書官）

北米局長
参事官
北米課長

秘
無期限

沖縄における総理演説に関する、
米大使館との話し合い要旨

40.8.17
北米課

本日2時半に在京米大使館ザヘーレン参事官は北米課枝村を来訪し総理の沖縄訪問に関し打合わせた。その要旨次の通り。

(1) 先方より、今朝程日本側から総理の空港到着時及び国映館における演説のテキストをいただいたが、自分の感じたことを云わせていただけば沖縄の戦略的軍事的重要性に対し言及されていないことは何とかならないかと思う。自分としては沖縄が極東全般のみならずとくに日本の防衛にとって有する重要性を認識するとの趣旨を総理が述べられることを強く希望するものである。この点は、先般

田中幹事長よりエマソン公使に対し、総理訪沖に当り、何か心得べきことはないかとの質問があったのに対しエマソンより米側の希望としてお願いした経緯もあったと承知していると述べた。これに対し当方より、これらの演説のテキストは数回にわたる会議のあとすでに総理の内決裁をも得たものであり今、変更は困難と思う。貴方に呈示した趣旨もこれについて合意を求めるということではなく、国映館のスピーチのあとのUSCARのプレス・リリース作成等のための参考にされる様、さしあげたものであることは御了解願いたい。又、総理は今回の訪沖に当り、10回にわたり挨拶をされるので、それぞれ適当な機会に適当な内容をもったものを準備する必要がある。今朝さしあげた2つのスピーチはまとして

沖縄住民の歓迎に応える目的のものであるので
申し越しの点は殆んど触れられていない。しかし、

たとえば宮澤外務官主催の晩餐会の席上の挨拶では
軍事的重要性についても相当言及されるはずである、と

答えておいた。これに対し、ザハーレンは、
貴官のいわれる点は理解できるが、宮澤外務官は先に

差しあげた2つの演説でお了解願えるとおり、日米
協力あるいは日本と沖縄との一体感等に関する日本

政府の立場に対し今までにない程の理解を示みより
を公やりにすることになっている。自分としては日本側

がこれに応えて、沖縄の軍事基地の、特に日本自身の
防衛に有する重要性について総理が強調されることを

期待するものである。宮澤外務官主催の晩餐会の席上
の総理挨拶は、この点、何とかしていただければ幸いで

あると述べた。当方より、晩餐会の挨拶も一応
固まった段階にあるが、お希望の趣旨は理解できる

ので総理秘書官とも連絡のうえ検討したいと答えて
おいた。（後刻、木野秘書官と連絡の上、国会答弁スピーチに
若干の手直しをすることとした）

(2). 当方から、宮澤外務官は総理が行政府
ビルを訪問される際、3階のエレベーターの前で

待ち、民政官が玄関に出迎えることになっているが、
あるいは、宮澤外務官及び行政主席が玄関まで出迎

えられる方が望ましいのではないかとも考えられる。
外務官は空港へ出迎えたことにより十分礼をつくした と

いうこともいいうるであろうが、public relations の点
からこの点多少の懸念もあるので日本側として強い希望

があるということではなく、マーケン政治顧問とそれとなく
話し合っていただければ幸いである、と述べた。

ザハーレンはこれに理解を示し、マーケンと電話連絡する旨約した。

(3) 先方より、総理との2回の懇談の際の吉等外務官の発言要旨をそれぞれ別添1および2のとおり説明したので、当方よりも総理の発言骨子として事務レベルの考えているところを簡単に説明しておいた。

(先方より、発言ぶり、英文録を手交したが、その際、軍人は、テキストをそのまま読むのが通例であるので事前に総理が、その全てを承知しておられることは、いかにもマズイので、これは外務省限りとされたい旨、とくに要請があった)

(註)
英文フル・テキストは、上記を伝えた上で本野秘書官のみに渡し、吉屋副長官および山野局長には、別添骨子(和文)のみを渡した。

WELCOMING SPEECH BY HICOM

Your Excellency:

Welcome to the Ryukyu Islands. It gives me great personal pleasure to extend greetings to you on behalf of the American Administration of these Islands.

Ladies and Gentlemen:

Today marks an historic and auspicious occasion for all of us gathered here this morning -- for Japanese and Americans alike. It is an esteemed honor for those residing in the Ryukyu Islands to receive this most welcome visit by the Prime Minister of Japan, His Excellency Eisaku Sato.

This is a visit which I personally have anticiapted for some time. The grand opportunity which has been given us today represents the fulfillment of a discussion which I was honored to hold with the Prime Minister when I called upon him in Tokyo some eight months ago. At that time the Prime Minister expressed a wish to visit these wonderful islands of Okinawa and to meet with the people of these islands.

I assured the Prime Minister at that meeting last December that all those who truly seek the objectives of both our great nations for enhancing the welfare and well-being of the inhabitants of the Ryukyu Islands will be honored by his coming in person and will hold in high esteem the opportunity which will be given the people here to assert their identity as Japanese. This three-day visit by the Prime Minister of Japan, that great country and ally of the United States in preserving the peace of the Far East, is yet another demonstration of cooperation between our two nations.

Assembled guests, ladies and gentlemen, the Prime Minister of Japan, His Excellency Eisaku Sato.

Japan-American partnership.

We welcome the public expression made by the Prime Minister at Noon today of the intention of the Japanese Government to increase its aid to education in the Ryukyu Islands and to extend loan funds to Ryukyuan financial institutions to be used in the advancement of the economy. The Civil Administration has already issued a press release stating our pleasure, but I wish to add my personal expression of thanks. We are grateful for Japan's cooperation in behalf of the well-being and welfare of the people of these islands. We look forward with anticipation to the integration of these newly proposed forms of assistance into the Long-Range Plan through the Consultative and Technical Committees.

I fear no contradiction .....

MICOM'S AFTER - DINNER INTRODUCTION

Prime Minister Sato, Chief Executive Matsuoka, Distinguished Guests, Ladies and Gentlemen:

Today is one which I am certain will not be forgotten in the annals of the history of these islands. It is a day toward which we all have been looking for many weeks. ~~All of us have been looking for many weeks.~~ All of us have been awaiting this day with happy expectation; but some, particularly the planners, with a deep sense of responsibility.

It is clear that the arrival of the Prime Minister is an occasion which long will be remembered by every one of us. The Prime Minister's visit is particularly welcome since he is the first Japanese Prime Minister to visit these islands since the War. His visit epitomises the close cooperative relationship which exists between the United States and Japan with regard to the islands and their partnership in the larger world. Indeed, his visit underscores the fact that these islands are only temporarily under American jurisdiction, and that they are permanently a part of the Japanese homeland to whose jurisdiction they will return. In this sense it will surely provide assurance to the people who live here of Japanese-American concern for and cooperation in their welfare and it will strengthen their cooperation with both sides of the Japanese-American partnership.

I fear no contradiction in stating my conviction that it is the hope and desire of all present -- Japanese and Americans alike - to see an honest and just peace come to Asia and to all the world. As a military man, I am wholly familiar with the difficulties and tragedies encountered during a period of hostilities. However, the peace we seek is not simply an abandonment of struggle, it is peace with equity and justice for all men -- a peace without oppression.

Clearly, in all areas of world conflict it takes more than the desire of a single nation to find peaceful settlements in which the dignity of man can be assured. All parties must demonstrate a genuine desire to devote themselves to finding just and fair solutions.

The United States and Japan stand as partners in seeking solutions to difficult problems which affect their mutual interests. This partnership is and has been one of respect and understanding. I look forward to seeing such a relationship continue throughout future years while we all work in our own way toward the peaceful goals which the people of our two nations desire.

Ladies and Gentlemen, I present the Prime Minister of Japan, His Excellency Eisaku Sato, a great and true advocate for peace and a proponent for ever greater world understanding.

北米局長
参事官
北米課長

極秘
無期限

沖縄における総理演説に関する
米大使館との話し合い要旨

昭40.8.18
北米課

8月18日朝エマソン公使は安川北米局長を来訪し、日本側より提供をうけた2つの総理訪沖の際の演説をワシントンに電報したところワシントンよりこれらの演説は米国の沖縄施政に対し、disparaging であるとして改訂方申し入れる様訓令をうけた。ワシントンは日本側の改訂より如何によっては当等外務官の演説ないしは発言も変更すべき旨、又、このまゝ~~ではこの~~総理演説が行なわれる場合には沖縄に関する日米協力関係に障害がありうる旨を伝えるよう訓令してきた、と述べた。

この申入れに基き総理の御決裁をも得て国映館の演説に別紙を挿入することとし、同18日午後、椎村がザヘーレン参事官を招致し、これを手交した。その際、ザヘーレンは、ワシントンが~~とく~~とくにどれらの点を問題にしているのかは承知しないが、といいながら2・3の点を指摘して、これらの点は、例えば住民が改善のための熱意を有しながら、米国施政権者がこれを押えているかの如くとられるのではないか、と述べた。これに対し椎村より、細かく詮索して between lines を読めば種々問題をほりだすことは出来るであろうが、米国を非難することは、総理の意図ではなく、又、原文のまゝでもそれがとくに米側を非難するものであると日本国民や沖縄住民がとることはないと思う。又、これは総理が同じ日本

国民である沖縄住民に訴すという性格のものであり、又、これらのほかにも全部で9つの挨拶がある訳であるので米側が全体として判断されることを希望すると述べておいた。

これに対しザヘーレンはワシントンが問題にしているのは、いちいちの個所よりも全体のtoneであると思う。日本国民ないし沖縄住民がこれらの演説をどうとるかということについては貴方の判断を尊重するとしても米側がhostとしてこれをどう受けとるか、ということは又別の問題である。ワシントンとしてはおそらく総理が吉等弁務官の賓客として訪沖しながら最も重要であり最もよく報道されると思われる宴席及び国映館における挨拶で米国に対し何らの言及もないという様な点を問題にしているのだと思う、と

述べた。これに対し当方より、その点は、いまお渡しした挿入部分で改善されたと思う。総理の意図は米側を難詰することでなく、~~従って~~ されば米側からの申入れに応じて早速~~も~~ 改訂を考慮した訳であり、その意は理解されたい、と述べておいた。ザヘーレンは最後に、エマソン公使から局長にも申し上げた筈であるが、先にお渡しした吉等弁務官の演説及び発言ぶりは、draftと考えられたく、それをfinalにするか否かは日本側の改訂ぶりをみたうえでのワシントンの判断によることを了解願いたい、と述べ辞去した。

極秘

~~まぜ~~

要写　部

発電係 小川　総第 31700 号

昭和 年 月 40. 日 8-23 時 15-52 分発

電信課長 [illegible]

漢

電信案　（分類　）

暗略 平　第 1650 号 ~~(1 1pp)~~

大臣 ~~政務次官~~ 事務次官 外務審議官 官房長	主管 北米局長 参事官 主任 北米課長	起案 昭和40年8月21日 起案者 桂村　電話番号 443

在 米 武内 臨時代理 大公使 総領事 宛 桂名 大臣発

転電報 在 大公使 総領事 宛

与済

件名 総理沖縄訪問（回答）

23 15

貴電第2334号に関し、

総理演説に関する米側との交渉の経緯

~~概~~要使参考までに次のとおり。

1. 16日在京米大使館より高等弁務官の空港

GB-1　外務省　回覧番号

における歓迎挨拶および晩餐会の席上における挨拶のテキストを送達するとともに、総理は19日国映館における「琉球政府主催」歓迎会の席上、対沖縄援助に関する構想を明らかにされるつもりであり、その後高等弁務官より、何らかの方法で、これを歓迎するとの趣旨を表明したいので、同歓迎会における総理演説のテキストを事前に入手したい旨申し越した。よって、17日北米課桂村よりザヘーレン参事官に同演説および空港到着時の総理挨拶のテキストを提示したところ、ザヘーレンは、全く自分限りの感触であるが、これらの演説中、~~沖縄の~~極東とくに日本自身の沖縄の安全保障にとっての重要性に言及されていないことは何とかならないかと思うと述べていた。

2. 18日午前、エマソン代理大使は、北米局長

GB-3　外務省

を来訪し、ワシントンより、総理の演説および挨拶は、米国の沖縄施政に対しdisparagingなりとして改訂方日本側に申し入れ、その際日本側の改訂ぶり如何によっては、弁務官の挨拶も変更することあるべき旨およびこのまま総理演説が行なわれる場合には沖縄に関する日米協力関係に障害があり得る旨通報するよう訓令越したと述べた。

3. 当方としては、総理と協議の上、その決意を得て、宴席における挨拶は、そのままとするが、国会館における演説に安保条約に基く日米盟邦関係、沖縄の安全保障上の役割りの重要性および米国の施政下でも経済的社会的進歩のあったそれぞれ簡単に事実に言及するパラグラフを、~~国会館における演説中~~挿入することとし、18日午後柱村よりザヘーレンに挿入部分を手交するとともに、

米国を非難することは総理の意図ではなく、たとえ原文のままでも、それが対米非難として日本国民および沖縄住民により受け取られることはないことを確信するものであるが、折角の申し出であるので、一部修正することとしたもので、また、これらの挨拶は、主として沖縄住民に対しアドレスされる性格のものであるところ、他にも19、20両日の晩餐会席上の挨拶等重要なステイトメントがあるので、米側が、これらのステイトメントのすべてについて全体として判断されることを希望する旨述べ、後刻晩餐会の挨拶テキスト等を米大使館に送達した。

4. これに対し、ザヘーレンは、ワシントンとしては、弁務官挨拶では、かってないほど日本側の立場に理解を示しているのにかかわらず、総理が、訪沖にあたりもっとも重要と思われるステイトメント中、米側の施政、軍事施設の重要性等

に何ら言及されないとの点を問題にしている
ものと思う。日本側の修正でワシントンが満足
するか否かは不明であるが、いずれにせよ、さきに
ファイナルとして差し上げた外務省の挨拶は
ワシントンの反応如何により変更されるべきものなることを承知願いたいと述べて
特記し その後
た。(ワシントンより、何らかの反応が示されたか否かにつき米大使館より連絡はないが、
現地における
外務省の挨拶は、16日先方より受領のテキストのとおり行なわれた)

関係会談録および挨拶文テキスト送付する。

タイプ指示	発信用	執務用	計
主信	1	1	2
付 3			
	4071		
属			

発送日 昭和40年8月24日

発信 タイプ 検査

秘 至急 期限

文書課長

公信案

（分類 ）

公信番号 米北 第 1013 号　公信日付 昭和40年8月24日

大臣
政務次官
事務次官
外務審議官
官房長

主管
北米局長
参事官
北米課長
主任

起案 昭和40年8月24日

起案者 山村（後藤） 電話番号 444

受信者 在米 武内大使

発信者 椎名外務大臣

写送付先

（希望発送日） 8月24日

件名 総理沖縄訪問に関する資料送付.

GA-2　外務省

24 182

回覧番号

米北第1013号

昭和40年8月24日

在米大使殿

外務大臣

総理沖縄訪問に関する資料送付

今回の総理沖縄訪問に関する下記資料を参考迄に別途送付する.

記

1. 総理挨拶　和・英両文各1部

(1) 到着の際の挨拶.

(2) 歓迎大会における挨拶

GA-4　外務省

(3) 立法院議員に対する挨拶

(4) 高等弁務官主催晩餐会における挨拶

(5) 糸満町における挨拶

(6) 総理主催晩餐会における挨拶

(7) 宮古飛行場における挨拶

(8) 石垣飛行場における挨拶

(9) 離島の挨拶

2. 高等弁務官発言骨子

I 8月19日 行政府ビルにおける会談

II 8月20日 フォート・バックナーにおける懇談

3. 高等弁務官挨拶文

welcoming speech 及び after-dinner introduction

4. 総理訪沖に関する在京米大使館との会談要旨

(1) 8月17日 ザハーレン参事官・枝村北米課首席事務官会談

(2) 8月18日 安川北米局長・エマリン公使会談

付属物空便

（アドバンス用につき取扱注意）

総理訪沖ステートメント

（八月十九日　於那覇国際空港）

沖縄同胞のみなさん。

私は、ただ今、那覇飛行場に到着いたしました。かねてより熱望しておりました沖縄訪問がここに実現し、漸くみなさんと親しくお目にかかることができました。感慨まことに胸せまる思いであります。沖縄が本土から分れて二十年、私たち国民は沖縄九十万のみなさんのことを片時たりとも忘れたことはありません。本土一億国民は、みなさんの長い間の御労苦に対し、深い尊敬と感謝の念をささげるものであります。私は沖縄の祖国復帰が実現しない限り、わが国にとつて「戦後」が終つていないことをよく承知しております。これはまた日本国民すべての気持でもあります。

私が、今回沖縄訪問を決意いたしましたのは、なによりもまず、本土の同胞を代表して、この気持をみなさんにお伝えしたかつたからであります。

私は、去る一月のジョンソン米国大統領との会談で沖縄の施政権をできるだけ早い機会に返還するよう強く要望しました。また、沖縄住民の民生安定と福祉向上のため日米相協力することについて意見の一致をみたのであります。私はこの基本的立場に立つて、沖縄の現実の姿を、直接この目で確かめ、耳で聞き、できるだけ広く深く当地の実情をつかんで、これを日本政府の沖縄施策のなかに具体的に生かしたいと存じます。そしてこのことは私の責任であるとともに、沖縄のみなさんの期待にこたえる所以であると考えます。

私は、ここに、沖縄九十万同胞の心からの歓迎に対し深く感謝するものであります。また、ワトソン高等弁務官、松岡行政主席はじめ関係者の温いお出迎えに対し、厚くお礼申し上げます。

（アドバンス用につき取扱注意）

総理大臣歓迎大会挨拶

（八月十九日　於　国映館）

私は、このたびかねてから念願しておりました沖縄訪問をここに実現することができましたことを心から喜んでおります。私は、先刻、那覇国際空港に降り立つたとき、私を歓迎するためにお集まり下さいました沖縄同胞の方々のまなざしの底に沖縄二十年の流れを読みとることができました。はじめて沖縄で見る日の丸の旗の波。皆様の真剣な表情。まさに万感胸にせまるものがありました。今この歓迎大会の壇上に立つて、満堂のみなさんにお目にかかり、さらにこの感慨を新たにしたのであります。私は、今こそ片時も忘れたことのないこの沖縄に来たという実感がひしひしと押し寄せてくるのを感じます。私は、心をこめて沖縄十八万の英霊の冥福を祈るとともに、遺族の方々に対し深くお慰めの言葉を申し上げます。

九十万沖縄同胞のみなさんは、戦後の傷心と荒廃のなかにあつて、日本人としての誇りを失わず、あらゆる悪条件と戦い、郷土の再建と、産業経済の復興に、よく今日まで御努力いただきました。私は、みなさんのこの不撓不屈の精神に衷心から敬意を表したいのであります。

この二十年の間に、わが国は、世界各国が注目するような高度の経済発展をなし遂げ、その国際的地位も飛躍的に高まつてきたのであります。このようなわが国の復興にもかかわらず、沖縄については、依然戦争の傷痕の残つていることを感ぜざるを得ないのであります。

私は、空港の挨拶でも申し上げたように、沖縄の祖国復帰が実現しない限り、わが国にとつて「戦後」が終わつていないことを、よく承知しております。

私は、今後とも、あらゆる機会をとらえて、この沖縄問題の解決にあたる決意であります。

わが国は、日米相互協力及び安全保障条約によつて米国と結ばれており、盟邦として互いに相協力する関係にあります。また極東における平和と安定のために、沖縄が果している役割はきわめて重要であります。私は、沖縄の安全がなければ、日本本土の安全はなく、また日本本土の安全がなければ沖縄の安全もないことを確信しております。

私は、戦後二十年間の米国の施政下にあつても、沖縄の経済発展と住民の福祉の向上の面で相当の進展がみられたことを承知しております。とくに、近年この面における米国政府と現地施政当局の示している熱意は高く評価するものであります。しかしながら、沖縄の現状を日本本土のそれと比較した場合、その懸隔は依然として大きく、未だ改善を要する面が多々あることは疑いの余地のないところであります。

かかる、基本的な認識にたつて、私は沖縄住民の福祉の向上をはかり、本土復帰の日に備えて当地の行政水準を本土のレベルに引き上げるため、できる限りの援助と協力を行なうことこそ本土政府の果すべき当面の義務であると考えるのであります。

これより私は、今回の沖縄訪問に際し積極的に検討を重ねてまいりました諸問題について触れたいと思います。

まず第一は教育についてであります。当地のみなさんの教育に対する熱意は、かの教育基本法の制定の経緯にもうかがわれるようにきわめて強いものがあることを心うれしく存じておるのであります。それにもかかわらず、なを義務教育については本土にくらべ、十分とはいい難い面が少なくないのであります。私は、この教育面に関する援助の

要望が全島的に高まりを示されているに答え、援助拡大の才一の項目としてこれを採りあげ、教育に関する諸種の問題を具体的に解決する措置をとりたいと考えております。

次は、社会福祉公衆衛生についてであります。当地におきましては、いまだに社会福祉制度の整備が立ちおくれ、また公衆衛生面についてもその地理的特殊性と相まつてなお相当数の結核、ハンセン氏病、精神病の患者が医療施設に収容しきれず人道上の問題を提起しております。このような事態を一掃することは民生安定の根本であります。私は、これら問題に対処し、公的扶助の拡充、医師の派遣措置の強化、病床の増設、治療のための本土施設への収容者数の増加等について援助の飛躍的拡大をはかりたいと考えております。

第三に、産業対策についてであります。

砂糖きびとパインの栽培などは当地の基本的産業でありますが、これは国際競争力の強化を図る上において生産の合理化が強く要請されている現状であります。さらに各種の中小企業の健全な育成も沖縄経済の発展にとつて欠くことのできない施策であります。私は、これらの目的を果たすべく長期低利の資金の供給を増大するため必要な措置をとりたいと考えております。

その他従来実施してまいりました各種援助につきましても、それぞれの必要性に応じ一層の強化をはかる所存であります。

以上述べました各種の施策につきましては、日米協議委員会の場において積極的に提案し当地において策定中の経済社会開発に関する長期計画とも密接に関連させながらその具体化をはかつてまいりたいと考えております。

私が今回、文部大臣、厚生大臣、総務長官、官房長官をはじめ、関係各省庁の責任者を同行し、あわせて自由民主党幹事長をはじめとする国会議員諸君の参加を求めましたのも今申しましたような事項について具体的な構想を固め、その推進をはからんがためであります。さらに当地の御出身であり常日頃私に対し、沖縄についての貴重な御意見を寄せていただいている大浜信泉先生にも特に御同行いただきました。

最後に、当地における住民自治の現況について一言いたしますと最近、みなさん方の強い要望に応えて米民政府の方針として、不必要な布告、布令の廃止、琉球政府への権限の委譲等の措置がとられております。私は、今後ともこの方針が一層推進され、琉球政府権限の拡大

を見るとともに市町村等の地方自治体も充実強化されて、日本本土におけると同様な住民自治が達成されるよう望むものであります。また渡航手続がさらに簡素化され、沖縄と本土との往来が一層容易にまた活潑になるように希望するものであります。幸いジョンソン米国大統領との会談の結果、日米協議委員会の権限が拡大されたことでもあり、今後は、日本政府としても、これらの分野における事態の改善に努力したい所存であります。

私は、琉球政府はじめ、沖縄要路の方々並びに住民各位が、私たち一行のために、かくも盛大な歓迎大会をお開き下さったことを、深く感謝いたします。切にみなさんの御健勝を祈つて御挨拶といたします。

ありがとうございました。

（アドバンス用につき取扱注意）

ワトソン高等弁務官主催晩餐会総理挨拶

（八月十九日於フォート。バックナー将校クラブ）

今夕は、私共一行をワトソン高等弁務官が晩餐会に、御招待下さつたことに対し、厚くお礼申し上げます。

昨年十二月ワトソン高等弁務官は、東京の総理官邸に私を訪問されました。その時私は、近く訪米し、ジョンソン大統領と会談する計画を持つておりましたが、高等弁務官に対し、沖縄をぜひ訪問したいと申しました。高等弁務官は、直ちに私を心から歓迎する旨述べられ、この訪問を意義あらしめるために今後とも協力して行こうと話合つたのであります。この私の希望が実現し、今回当地を訪れ高等弁務官と再会することができましたことを、心から喜んでおります。

私の今回の訪問が当地沖縄にとつてはいうまでもなく、あわせて日米両国の共通の利益の増進に役立つものであることを確信いたします。

また、私は、高等弁務官が昨年八月着任以来、琉球政府の機能強化民生の安定のために努力しておられることを、高く評価しております。

私は、昨年弁務官が東京で、「私は奇蹟を起こすことはできない。」と控え目にいわれたことを記憶しております。しかし、今日、私が、当地を訪れまして弁務官の努力が著しく効果を上げ特に沖縄住民との間の相互信頼と協力の面において大きな進展がみられていることを目のあたりにみて誠に喜ばしく感じている次第であります。従来とられてきたこの方針が、さらにすすめられることをあらためてお願いするとともに沖縄住民が、日本本土の住民と同じようなより高い福祉と、より充実した住民自治を享受しうるように、日本政府といたしまして

も、必要な経済援助その他各般の御協力を決して惜しむものではないことをお約束します。

先般のジョンソン米国大統領と私との共同声明でも明らかにされているごとく、沖縄における米国の軍事施設が極東の平和と安全のため極めて重要であることは申すまでもありません。私は、米軍関係者の御努力を多とするものであります。

わが国は、外交内政を通じて、平和に徹することを国是としているのであります。私は、今日激動しているアジアに一日も早く平和と安定が確立されることを念願し、このために一層の努力をかたむけたいと決意しているのであります。これはまた沖縄の日本本土復帰という日本国民全体の悲願実現の道にも通じるものと思います。

終わりに、私たち一行の沖縄訪問に対し、ワトソン高等弁務官はじめ民政府の方々が、綿密周到な準備と、温い心遣いをもつて迎えてくださつたことに対し、一行を代表して感謝の意を表したいと存じます。

本日の好意のこもつた御招待に心からお礼を申し上げて私の御挨拶といたします。

（アドバンス用につき取扱注意）

立法院議員に対する挨拶

（八月二十日　於東急ホテル）

私は、沖縄訪問の機会に立法院議員各位にお会いして御挨拶を申し上げる機会を得ましたことを、非常にうれしく存じます。

私は、まず最初に、私の今回の訪問にあたり沖縄九十万同胞各位が示されました熱烈な歓迎に対し、衷心から感激し感銘していることをお伝えいたしたいと存じます。

また、戦禍の中から立ち上つて、この二十年の間、困難な諸条件の下で、よく今日の沖縄を築き上げられた官民各位の御苦労を高く評価いたします。とくに、立法院議員の各位は、再三の障害にも屈せず、遂に「日本人としての教育」という原則をうちたてられましたかの「教育基本法」の制定の経緯にも示されるように、特殊な施政形態の下にあつて、よくこの困難を克服し、沖縄九十万の民意を貫き沖縄の再建と自治の拡大に寄与されたことに対しては、深く感銘するところであります。

私は、ことに日本本土一億の国民も沖縄の施政権返還が一日も早く実現することを熱望していることを、みなさんに申し上げたいと思います。私は、本年二月の訪米その他の機会に、施政権返還に対するこのような日本国民の願望を明白に米側に伝えてきたのであります。これに対し、米国側も、わが国民の施政権返還に対する願望を理解し、それが実現する日を待望している旨を明らかにしているのであります。また、米国は、沖縄が日本の施政下に復帰することを前提として、その場合の困難をもつとも少なくするための具体的施策を、わが国と協力して実施してゆくとの姿勢を示しております。日米協議委員会およ

び日米琉技術委員会は、その具体的な表われであります。

ただ今申し述べましたような沖縄を含めての日米協調の体制が、あくまで、沖縄の本土復帰を前提としたものであり、究極的には、施政権の返還につながっていることは、疑いの余地のないところであります。したがって私は、施政権返還についての国民的要望を今後とも強く訴え続けるとともに、この沖縄の根本的課題を日米協力体制の中で解決をはかっていく決意であることもこの際、あわせて申し上げておきたいのであります。

ただ、このような根本的な問題と同時に、私達は、同じように重要な当面の問題の存在を忘れてはならないと思うものであります。今日、現時点において沖縄にとって最も緊要の問題は、教育の振興、民生の安定、経済の発展であります。これに対して私が、昨日の歓迎大会の席上で申し述べましたように本土政府としても各種の援助強化を用意いたしておりますが、立法院各位におかれてもそれぞれの立場においてこのことに力をつくされるようお願いいたします。

昨年ワトソン高等弁務官が着任されて以来、布告、布令の廃止、民政府権限の移譲等を通じて、琉球政府の強化をはかられる一方、渡航制限の緩和、言論自由の拡大等の措置がとられてきていることについては、本土政府としても好感をもって迎えているところでありますが、このことにつきましても、みなさん方の絶えざる努力に負うところの少なからぬものがあると考えております。今後も引き続き高い誇りの下に沖縄の繁栄に連なる指導的役割を果たされるよう祈念いたします。

私は、国政を担当するものとして、その使命と責任を深く自覚し日々の政治に取り組んでおります。同じ日本の一部である当地沖縄がや

むをえぬ事情の下に本土を離れ、みなさん方の手にゆだねられていえのでありますが、どうかこの私の心をおくみ取りいただき、共々に日本民族の発展のため努力されるようお願い申し上げます。どうか立法院議員各位におかれてはいよいよ沖縄の発展のために御健闘下さい。

本日は、お暑いところわざわざ御参集いただきましてありがとうございました。これをもつて御挨拶といたします。

（アドバンス用につき取扱注意）

名護町における挨拶

（八月二十日　於名護町総合グランド）

皆さん。お暑いさ中にかかわらず、かくも多数の方々が、私共一行を歓迎していただいたことに対し、厚く御礼申し上げます。

私共は、昨日南部の戦跡を巡拝し、その当時の犠牲の大きさ。いたましさにあらためて胸の痛む思いを受けました。更に、その往復の途次、或いは今日、この名護にまいります途中の空から望見しました出畑の有様や、那覇、名護の町並をみて、あの当時一木一草をもとどめないまでに荒廃に帰したこの地を、よくぞここまで復興されたとの感慨に思わず襟を正したのであります。

沖縄は第二次大戦における最大の激戦地でありました。そして沖縄の方々はこの戦争で多大の犠牲を払われました。しかも戦後二十年にわたって、数々の悪条件を克服して、復興と再建に邁進されております。私がこの度御当地を訪問いたしたのは本土同胞の激励と、できる限りお力添えしたい気持を皆さんにお伝えしたかったからであります。私共自身、直接に皆さん方に接し、沖縄の実情を肌で感じとり、これを今後の沖縄に対する施策に強く活かしてゆく決意であります。

今日、これから予定されておりますところの、此の地区の各界代表の方々との懇談、また那覇に帰りまして、沖縄全域を代表される方々との懇談において、私共一行は更に真剣な勉強をさせていただきたいと思います。名護の皆さん、どうか今後とも御健勝にあられることをお祈りいたします。

本日はまことにありがとうございました。

（アドバンス用につき取扱注意）

総理主催晩餐会における総理挨拶

（八月二十日於東急ホテル）

今夕は、皆様方を御招待いたしましたところ、御多忙中にもかかわらず、ワトソン高等弁務官、松岡行政主席をはじめ多数の方々の御出席をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

私は、昨日、那覇空港に到着以来、南部戦跡の巡拝をはじめ米軍事施設、各公共施設等の視察を行なうとともに、各界の方々との懇談を行ないましたが、本日をもつて沖縄本島における私の訪問日程を有意義に終了することができました。

私は、この二日間の視察により、沖縄の現実の姿を知る貴重な体験をし、また沖縄に対する認識を一層深めました。この間の関係の方々の行き届いた御配慮に対し、ここに厚くお礼申し上げます。

私は内閣総理大臣就任以来沖縄問題を政治の最も重要な課題の一つとして取組んで参りました。本年一月のジョンソン米国大統領との会談において、沖縄の施政権返還と、沖縄住民の自治の拡大及び福祉の一層の向上に対する関心を表明したのでありますが、これに対し、大統領は、施政権返還に対する日本の政府及び国民の願望に対して、理解を示し、極東における自由世界の安全保障上の利益が、この願望の実現を許す日を待望していると述べられたのであります。私は、極東における平和を希求し、沖縄の本土復帰が、すみやかに行なわれることを強く希望するものでありますが、この日本国民の悲願が、実現をみるまでの間は、沖縄の施政各般において、民主主義に基づく諸原則が、一層拡充強化され、住民自治の拡大と住民福祉の向上が図られることを、期待するものであります。

戦後、わが国は、平和な福祉国家の建設をめざして、各方面で高い水準の成長を遂げることができたのでありますが、私は、これを可能にした要因は、わが国が民主主義の原則に基づき国民の自由意志による活動を十分に行なわしめうる体制を、堅持したことにあると思います。そして、この民主主義の原則は、現代における世界一般に妥当する支配的な原理であるものと信ずるものであります。

沖縄は戦禍の中から立ち上つて、よく今日の状態にまで到達しました。これは民政府、琉球政府及び民間の三者協力により種々の困難を一つ一つ乗り越えられた御努力の成果であります。今後さらに進歩を重ね、建設にいそしみ、沖縄の住民が、より充実した民主主義の果実を享受しうるようにすることが目標でなければなりません。今後におけるみなさま方の一層の御努力につつとところきわめて大きいのであります。日本政府といたしましても、私の訪問を新たな出発点としてこれがために必要な経済援助、その他各般の御協力を、積極的に行なつてまいる所存でありますので、御協力をお願いいたします。

本日は、まことにありがとうございました。

石垣飛行場における挨拶（要）

（八月二十一日　於　石垣空港）

みなさん、お暑い中をかくも多数の方々が、私共一行を歓迎していただいたことに対し、深く感謝をいたします。

私共は、一昨日及び昨日の本島における行事及び本日の宮古島訪問をつつがなく終え、沖縄訪問の最後の日程として予定された、此の地に、ただ今到着したわけであります。私は、南の島のきびしい自然的環境に加えて、戦争末期から戦後二十年にわたり、特殊な事情の下における数々の困難にもめげず、敢然とこれ等に立ち向つて独力で復興にいそしみ、再建を遂げつつある皆さん方に対し、本土同胞の心からの声援をお伝えいたします。

と同時に私自身直接に皆さん方の御活躍を見、皆さん方の訴えに、直かに肌でふれることにより、一層の認識を深め、これを本土につたえて、沖縄と本土の一体化を推し進めたいのであります。

今日、これから予定されておりますこの地の日程は、きわめて短時間ではありますが、この時間を最大限に活用し、真剣に取り組んで正しい認識と理解を深めることに努め、その成果を本土に持ち帰つて有効適切な施策に反映すべく、全力を傾ける所存であります。とくに皆さん方が強く要望されているテレビ局の設置につきましては早速これを取り上げできるだけ早く本土のテレビ番組を見て頂くよう努力したいと思つております。どうか皆さん、今後とも御健勝のほどをお祈りいたします。

本日は、まことにありがとうございました。

宮古飛行場における挨拶（案）

（八月二十一日　於宮古空港）

みなさん、この暑い中を、かくも大勢の方々が、私共一行を歓迎していただいたことに対し厚くお礼申し上げます。

私共一行は、一昨日及び昨日の本島における行事をつつがなく終えて今日、この地をお訪ねした次第であります。

私は、戦争末期から戦後二十年にわたつて、特殊な事情の下に、数々の困難に打ち勝ち、復興と、再建にいそしんでおられる皆さん方に対し本土同胞の心からなる声援を、出来る限りのお力添えの気持をお伝えしたかつたのであります。

と同時に、私自身このはるか離れた南の島における皆さん方の御活躍を目のあたりに拝見し、皆さん方の訴えを、直かに拝聴することにより一層認識を深め、これを本土に伝えて、沖縄と本土の一体化を推し進めたいのであります。

この宮古も、戦争当時、軍の基地として、大きな犠牲を払われ、その爪跡は、今日なお癒されない面の残つていると聞いておりますが、それにも拘らず、その後長年にわたり、復興に努められ、今日の状況にまで到達された皆さん方の不撓の精神には真に頭の下る思いであります。今日、これから予定されておりますこの地区の現況の御説明と、各界代表の方々との懇談及び、島内の見学を通じて、私共は、真剣に取り組み、短い時間を、出来る限り活用して、認識を深め、これを本土に持ち帰つて、有効適切な施策に反映すべく、全力をつくしたいと思います。ことに

皆さん方の強い要望でありますところのテレビ局の設置につきましては早速これを取り上げできるだけ早く本土と同じ番組を見て頂くようにしたいと考えております。

どうか皆さん今後とも御健勝にあられることを心から希望いたします。

本日はまことにありがとうございました。

（アドバンス用につき取扱注意）

離島の挨拶

（八月二十一日於那覇国際空港）

私は、沖縄滞在のすべての日程を終わり、沖縄を去るに当つて、御挨拶を申し上げたいと存じます。

私は、私の滞在中に示されました沖縄九十万同胞の熱烈な歓迎と声援に心から感謝の言葉を申し上げたいと存じます。

私はまず、黎明の塔、ひめゆりの塔、健児の塔など戦跡に眠る十八万の英霊に対し、その冥福を祈るとともに、これらの尊い犠牲者のうえに築かれている日本の平和の意義をあらためて痛感いたしました。

同時に沖縄は、極東における自由と平和を守る上において重要な役割を演じております。私は、九十万沖縄住民が、戦後二十年にわたつて払つてこられた御労苦を高く評価いたします。申すまでもなく、沖縄の祖国復帰は、沖縄住民はいうに及ばず、日本国民全体の悲願であり、この悲願達成のため、私は今後一段と、努力を傾けて参りたいと存じます。この本土復帰が実現するまでの間、日本本土と沖縄との間に存在する社会上、経済上の格差を解消し、民生福祉の向上を図ることこそ、当面の重要かつ緊急な問題であると考えます。

また、私は、日本本土と沖縄との間における経済、文化等各方面の交流を一段と促進し、日本本土住民と沖縄住民との連帯感を一層緊密化する必要を痛感いたしましたので、今後、これらの具体策についても検討いたしたいと存じます。

私は、今回の視察によつて得た貴重な認識と体験を、将来の日本政府の施策に反映し、必ずや沖縄住民の幸福に結びつける決意であります。

28

ワトソン高等弁務官はじめ、米国民政府の方々、松岡行政主席、長嶺立法院議長はじめ琉球政府要路の方々、産業経済、文化、教育、社会福祉事業各界各層の代表者の方々の御厚意に対し、厚くお礼申し上げます。

最後に、九十万沖縄同胞各位の御健康と御活躍を祈つて私の離島の御挨拶といたします。

秘

離島の挨拶（案）

（八月二十一日於那覇国際空港）

私は、沖縄滞在のすべての日程を終わり、沖縄を去るに当たつて、御挨拶を申し上げたいと存じます。

私は、私の滞在中に示されました沖縄九十万同胞の熱烈な歓迎と声援に心から感謝の言葉を申し上げたいと存じます。

私はまず、南部戦跡に眠る十八万の英霊に対し、その冥福を祈るとともに、これらの尊い犠牲者のうえに築かれている今日の平和の意義をあらためて痛感した次第であります。

また、私は、沖縄の基地が極東における自由と平和を守る上において重要な役割を演じている点をあらためて認識する一方、この基地維持のために、九十万沖縄住民が、戦後二十年にわたつて払つてこられた物心両面の御労苦を高く評価し、共感するものであります。申すまでもなく、沖縄の祖国復帰、施政権返還の問題は、沖縄住民はいうに及ばず、日本国民全体の悲願であり、この悲願達成のため、私は今後一段と、努力を傾けて参りたいと存じます。もちろん、この問題は、沖縄基地が担つている極東の平和と安全の確保という重大な役割と関連した問題であり、今直ちに、その根本的解決を図ることには、困難があろうことは、大多数の沖縄住民の方々にも、御理解願える問題であると存じます。したがつてこの本土復帰が実現するまでの間、日本本土と沖縄との間に存在する社会上、経済上の格差を解消し、民生福祉の向上を図ることとそ、当面の重要かつ緊急な問題であると考えます。

また、私は、日本本土と沖縄との間における経済、文化等各方面の

交流を一段と促進し、日本本土住民と沖縄住民との連帯感を一層緊密化する必要を痛感いたしましたので、今後、これらの具体策についても検討いたしたいと存じます。

私は、ただ今から再び東京に帰りますが、私の今回の視察によつて得た貴重な体験と知識を、将来の日本政府の施策に反映し、必ずや九十万沖縄住民の幸福に結びつける覚悟であります。

私は、ワトソン高等弁務官はじめ、米国民政府の方々、松岡行政主席、長嶺立法院議長はじめ琉球政府要路の方々、産業経済、文化、教育、社会福祉事業各界各層の代表者の方々の御厚意に対し、厚くお礼申し上げます。そして私は、明日の沖縄を築くため、みなさま方の御健闘に強く期待するものであります。

最後に、私は、九十万沖縄同胞各位の御健康と御活躍を祈念して私の離島の御挨拶といたします。

（アドバンス用につき取扱注意）

名護町における挨拶

（八月二十日　於名護町総合グランド）

皆さん、お暑いさ中にかかわらず、かくも多数の方々が、私共一行を歓迎していただいたことに対し、厚く御礼申し上げます。

私共は、昨日南部の戦跡を巡拝し、その当時の犠牲の大きさ、いたましさにあらためて胸の痛む思いを受けました。更に、その往復の途次、或いは今日、この名護にまいります途中の空から望見しました田畑の有様や、那覇、名護の町並をみて、あの当時一木一草をもとどめないまでに荒廃に帰したこの地を、よくぞここまで復興されたとの感慨に思わず襟を正したのであります。

沖縄は第二次大戦における最大の激戦地でありました。そして沖縄の方々はこの戦争で多大の犠牲を払われました。しかも戦後二十年にわたつて、数々の悪条件を克服して、復興と再建に邁進されております。私がこの度御当地を訪問いたしましたのは本土同胞の激励と、できる限りお力添えしたい気持を皆さんにお伝えしたかつたからであります。私共自身、直接に皆さん方に接し、沖縄の実情を肌で感じとり、これを今後の沖縄に対する施策に強く活かしてゆく決意であります。

今日、これから予定されておりますところの、此の地区の各界代表の方々との懇談、また那覇に帰りまして、沖縄全域を代表される方々との懇談において、私共一行は更に真剣な勉強をさせていただきたいと思います。名護の皆さん、どうか今後とも御健勝にあられることをお祈りいたします。

本日はまことにありがとうございました。

（アドバンス用につき取扱注意）

総理大臣歓迎大会挨拶

（八月十九日　於　国映館）

私は、このたびかねてから念願しておりました沖縄訪問をここに実現することができましたことを心から喜んでおります。私は、先刻、那覇国際空港に降り立つたとき、私を歓迎するためにお集まり下さいました沖縄同胞の方々のまなざしの底に沖縄二十年の流れを読みとることができました。はじめて沖縄で見る日の丸の旗の波。皆様の真剣な表情。まさに万感胸にせまるものがありました。今この歓迎大会の壇上に立つて、満堂のみなさんにお目にかかり、さらにこの感慨を新たにしたのであります。私は、今こそ片時も忘れたことのないこの沖縄に来たという実感がひしひしと押し寄せてくるのを感じます。私は、心をこめて沖縄十八万の英霊の冥福を祈るとともに、遺族の方々に対し深くお慰めの言葉を申し上げます。

九十万沖縄同胞のみなさんは、戦後の傷心と荒廃のなかにあつて、日本人としての誇りを失わず、あらゆる悪条件と戦い、郷土の再建と、産業経済の復興に、よく今日まで御努力いただきました。私は、みなさんのこの不撓不屈の精神に衷心から敬意を表したいのであります。

この二十年の間に、わが国は、世界各国が注目するような高度の経済発展をなし遂げ、その国際的地位も飛躍的に高まつてきたのであります。このようなわが国の復興にもかかわらず、沖縄については、依然戦争の傷痕の残つていることを感ぜざるを得ないのであります。

私は、空港の挨拶でも申し上げたように、沖縄の祖国復帰が実現しない限り、わが国にとつて「戦後」が終わつていないことを、よく承知しております。

私は、今後とも、あらゆる機会をとらえて、この沖縄問題の解決にあたる決意であります。

わが国は、日米相互協力及び安全保障条約によつて米国と結ばれており、盟邦として互いに相協力する関係にあります。また極東における平和と安定のために、沖縄が果している役割はきわめて重要であります。私は、沖縄の安全がなければ、日本本土の安全はなく、また日本本土の安全がなければ沖縄の安全もないことを確信しております。

私は、戦後二十年間の米国の施政下にあつても、沖縄の経済発展と住民の福祉の向上の面で相当の進展がみられたことを承知しております。とくに、近年この面における米国政府と現地施政当局の示している熱意は高く評価するものであります。しかしながら、沖縄の現状を日本本土のそれと比較した場合、その懸隔は依然として大きく、未だ改善を要する面が多々あることは疑いの余地のないところであります。

かかる、基本的な認識にたつて、私は沖縄住民の福祉の向上をはかり、本土復帰の日に備えて当地の行政水準を本土のレベルに引き上げるため、できる限りの援助と協力を行なうことこそ本土政府の果すべき当面の義務であると考えるのであります。

これより私は、今回の沖縄訪問に際し積極的に検討を重ねてまいりました諸問題について触れたいと思います。

まず第一は教育についてであります。当地のみなさんの教育に対する熱意は、かの教育基本法の制定の経緯にもうかがわれるようにきわめて強いものがあることを心うれしく存じておるのであります。それにもかかわらず、なを義務教育については本土にくらべ、十分とはいい難い面が少なくないのであります。私は、この教育面に関する援助の

要望が全島的に高まりを示されているに答え、援助拡大の才一の項目としてこれを採りあげ、教育に関する諸種の問題を具体的に解決する措置をとりたいと考えております。

次は、社会福祉公衆衛生についてであります。当地におきましては、いまだに社会福祉制度の整備が立ちおくれ、また公衆衛生面についてもその地理的特殊性と相まつてなお相当数の結核、ハンセン氏病、精神病の患者が医療施設に収容しきれず人道上の問題を提起しております。このような事態を一掃することは民生安定の根本であります。私は、これら問題に対処し、公的扶助の拡充、医師の派遣措置の強化、病床の増設、治療のための本土施設への収容者数の増加等について援助の飛躍的拡大をはかりたいと考えております。

才三に、産業対策についてであります。

砂糖きびとパインの栽培などは当地の基本的産業でありますが、これは国際競争力の強化を図る上において生産の合理化が強く要請されている現状であります。さらに各種の中小企業の健全な育成も沖縄経済の発展にとつて欠くことのできない施策であります。私は、これらの目的を果たすべく長期低利の資金の供給を増大するため必要な措置をとりたいと考えております。

その他従来実施してまいりました各種援助につきましても、それぞれの必要性に応じ一層の強化をはかる所存であります。

以上述べました各種の施策につきましては、日米協議委員会の場において積極的に提案し当地において策定中の経済社会開発に関する長期計画とも密接に関連させながらその具体化をはかつてまいりたいと考えております。

私が今回、文部大臣、厚生大臣、総務長官、官房長官をはじめ、関係各省庁の責任者を同行し、あわせて自由民主党幹事長をはじめとする国会議員諸君の参加を求めましたのも今申しましたような事項について具体的な構想を固め、その推進をはからんがためであります。さらに当地の御出身であり常日頃私に対し、沖縄についての貴重な御意見を寄せていただいている大浜信泉先生にも特に御同行いただきました。

最後に、当地における住民自治の現況について一言いたしますと最近、みなさん方の強い要望に応えて米民政府の方針として、不必要な布告、布令の廃止、琉球政府への権限の委譲等の措置がとられております。私は、今後ともこの方針が一層推進され、琉球政府権限の拡大

を見るとともに市町村等の地方自治体も充実強化されて、日本本土における と同様な住民自治が達成されるよう望むものであります。また渡航手続がさらに簡素化され、沖縄と本土との往来が一層容易にまた活潑になるように希望するものであります。幸いジョンソン米国大統領との会談の結果、日米協議委員会の権限が拡大されたことでもあり、今後は、日本政府としても、これらの分野における事態の改善に努力したい所存であります。

私は、琉球政府はじめ、沖縄要路の方々並びに住民各位が、私たち一行のために、かくも盛大な歓迎大会をお開き下さつたことを、深く感謝いたします。切にみなさんの御健勝を祈つて御挨拶といたします。

ありがとうございました。

（アドバンス用につき取扱注意）

立法院議員に対する挨拶

（八月二十日　於東急ホテル）

私は、沖縄訪問の機会に立法院議員各位にお会いして御挨拶を申し上げる機会を得ましたことを、非常にうれしく存じます。

私は、まず最初に、私の今回の訪問にあたり沖縄九十万同胞各位が示されました熱烈な歓迎に対し、衷心から感激し感銘していることをお伝えいたしたいと存じます。

また、戦禍の中から立ち上つて、この二十年の間、困難な諸条件の下で、よく今日の沖縄を築き上げられた官民各位の御苦労を高く評価いたします。とくに、立法院議員の各位は、再三の障害にも屈せず、遂に「日本人としての教育」という原則をうちたてられましたかの「教育基本法」の制定の経緯にも示されるように、特殊な施政形態の下にあつて、よくこの困難を克服し、沖縄九十万の民意を貫き沖縄の再建と自治の拡大に寄与されたことに対しては、深く感銘するところであります。

私は、ここに日本本土一億の国民も沖縄の施政権返還が一日も早く実現することを熱望していることを、みなさんにお伝えしたいと思います。私は、本年一月の訪米その他の機会に、施政権返還に対するこのような日本国民の願望を明白に米側に伝えてきたのであります。これに対し、米国側も、わが国民の施政権返還に対する願望を理解し、それが実現する日を待望している旨を明らかにしているのであります。また、米国は、沖縄が日本の施政下に復帰することを前提として、その場合の困難をもつとも少なくするための具体的施策を、わが国と協力して実施してゆくとの姿勢を示しております。日米協議委員会およ

び日米琉技術委員会は、その具体的な表われであります。

ただ今申し述べましたような沖縄を含めての日米協調の体制が、あくまで、沖縄の本土復帰を前提としたものであり、究極的には、施政権の返還につながっていることは、疑いの余地のないところであります。したがって私は、施政権返還についての国民的要望を今後とも強く訴え続けるとともに、この沖縄の根本的課題を日米協力体制の中で解決をはかっていく決意であることもこの際、あわせて申し上げておきたいのであります。

ただ、このような根本的な問題と同時に、私達は、同じように重要な当面の問題の存在を忘れてはならないと思うものであります。今日、現時点において沖縄にとって最も緊要の問題は、教育の振興、民生の安定、経済の発展であります。これに対して私が、昨日の歓迎大会の席上で申し述べましたように本土政府としても各種の援助強化を用意いたしておりまして、立法院各位におかれましてもそれぞれの立場において、ぜひとも力をつくされるようお願いいたします。

昨年ワトソン高等弁務官が着任されて以来、布告、布令の廃止、民政府権限の移譲等を通じて、琉球政府の強化をはかられる一方、渡航制限の緩和、言論自由の拡大等の措置がとられてきていることについては、本土政府としても好感をもって迎えているところでありますが、このことにつきましても、みなさん方の絶えざる努力に負うところの少なからぬものがあると考えております。今後も引き続き高い誇りの下に沖縄の繁栄に連なる指導的役割を果たされるよう祈念いたします。

私は、国政を担当するものとして、その使命と責任を深く自覚し日々の政治に取り組んでおります。同じ日本の一部である当地沖縄がや

むをえぬ事情の下に本土を離れ、みなさん方の手にゆだねられていたのでありますが、どうかこの私の心をおくみ取りいただき、共々に日本民族の発展のため努力されるようお願い申し上げます。どうか立法院議員各位におかれてはいよいよ沖縄の発展のために御健闘下さい。

本日は、お暑いところわざわざ御参集いただきましてありがとうございました。これをもつて御挨拶といたします。

（アドバンス用につき取扱注意）

立法院議員に対する挨拶

（八月二十日　於東急ホテル）

私は、沖縄訪問の機会に立法院議員各位にお会いして御挨拶を申し上げる機会を得ましたことを、非常にうれしく存じます。

私は、まず最初に、私の今回の訪問にあたり沖縄九十万同胞各位が示されました熱烈な歓迎に対し、衷心から感激し感銘していることをお伝えいたしたいと存じます。

また、戦禍の中から立ち上つて、この二十年の間、困難な諸条件の下で、よく今日の沖縄を築き上げられた官民各位の御苦労を高く評価いたします。とくに、立法院議員の各位は、再三の障害にも屈せず、遂に「日本人としての教育」という原則をうちたてられましたかの「教育基本法」の制定の経緯にも示されるように、特殊な施政形態の下にあつて、よくこの困難を克服し、沖縄九十万の民意を貫き沖縄の再建と自治の拡大に寄与されたことに対しては、深く感銘するところであります。

私は、ここに日本本土一億の国民も沖縄の施政権返還が一日も早く実現することを熱望していることを、みなさんに、伝えたいと思います。私は、本年一月の訪米その他の機会に、施政権返還に対するこのような日本国民の願望を明白に米側に伝えてきたのであります。これに対し、米国側も、わが国民の施政権返還に対する願望を理解し、それが実現する日を待望している旨を明らかにしているのであります。また、米国は、沖縄が日本の施政下に復帰することを前提として、その場合の困難をもつとも少なくするための具体的施策を、わが国と協力して実施してゆくとの姿勢を示しております。日米協議委員会およ

び日米琉技術委員会は、その具体的な表われであります。

ただ今申し述べましたような沖縄を含めての日米協調の体制が、あくまで、沖縄の本土復帰を前提としたものであり、究極的には、施政権の返還につながっていることは、疑いの余地のないところであります。したがって私は、施政権返還についての国民的要望を今後とも強く訴え続けるとともに、この沖縄の根本的課題を日米協力体制の中で解決をはかっていく決意であることもこの際、あわせて申し上げておきたいのであります。

ただ、このような根本的な問題と同時に、私達は、同じように重要な当面の問題の存在を忘れてはならないと思うものであります。今日、現時点において沖縄にとって最も緊要の問題は、教育の振興、民生の安定、経済の発展であります。これに対して私が、昨日の歓迎大会の席上で申し述べましたように本土政府としても各種の援助強化を用意いたしておりますが、立法院各位におかれましてもそれぞれの立場において、このことに力をつくされんことをお願いいたします。

昨年ワトソン高等弁務官が着任されて以来、布告、布令の廃止、民政府権限の移譲等を通じて、琉球政府の強化をはかられる一方、渡航制限の緩和、言論自由の拡大等の措置がとられてきていることについては、本土政府としても好感をもって迎えているところでありますが、このことにつきましても、みなさん方の絶えざる努力に負うところの少なからぬものがあると考えております。今後も引き続き高い誇りの下に沖縄の繁栄に連なる指導的役割を果たされるよう祈念いたします。

私は、国政を担当するものとして、その使命と責任を深く自覚し日々の政治に取り組んでおります。同じ日本の一部である当地沖縄がや

むをえぬ事情の下に本土を離れ、みなさん方の手にゆだねられているのでありますが、どうかこの私の心をおくみ取りいただき、共々に日本民族の発展のため努力されるようお願い申し上げます。どうか立法院議員各位におかれてはいよいよ沖縄の発展のために御健闘下さい。

本日は、お暑いところわざわざ御参集いただきましてありがとうございました。これをもつて御挨拶といたします。

8/19 の閣議での挨拶の後

総理訪沖ステートメント

（八月十九日　於那覇国際空港）

沖縄同胞のみなさん。

私は、ただ今、那覇飛行場に到着いたしました。かねてより熱望しておりました沖縄訪問がここに実現し、みなさんと親しくお目にかかりいうべき言葉を失ない胸せまる思いであります。今日の沖縄が本土から分離して二十年、私たち国民は片時たりとも沖縄九十万同胞のみなさんのことを忘れたことはありません。本土一億国民は、沖縄のみなさんの長い間の御労苦に対し、深い尊敬と感謝の念をささげるものであります。

私が、今回沖縄訪問を決意いたしましたのは、なによりもまず、本土の同胞を代表して、この気持をみなさんにお伝えしたかつたからであります。

私は、去る一月のジョンソン米国大統領との会談で沖縄の施政権をできるだけ早い機会に返還されたいことを強く要望しました。また、当面の施策としては、相当規模の経済援助の継続と沖縄住民の民生の安定と福祉向上のため日米相協力することについて意見の一致をみたのであります。私が今回当地に参りましたのも、この基本的立場に立つて、沖縄の現実の姿を、直接この目で確かめ、耳で聞き、できるだけ広く深く当地の実情をつかんで、これを日本政府の沖縄施策のなかに具体的に生かすことが、沖縄同胞に対する私の責任であると考えたからにほかなりません。

私は、ここに、沖縄九十万同胞の心からの歓迎に対し深く感謝するものであります。また、ワトソン高等弁務官、松岡行政主席はじめ関係者の温いお出迎えに対し、厚くお礼申し上げます。

秘

総理大臣歓迎大会挨拶

（八月十九日　於国映館）

私は、このたびかねてから念願しておりました沖縄訪問をここに実現することができましたことを心から喜んでおります。私は、先刻、那覇国際空港に降り立つたとき、私を歓迎するためにお集まり下さいました沖縄同胞の方々のまなざしの底に沖縄二十年の流れを読みとることができました。はじめて沖縄で見る日の丸の旗の波。皆様の真剣な表情。まさに万感胸にせまるものがありました。今この歓迎大会の壇上に立つて、満堂のみなさんにお目にかかり、さらにこの感慨を新たにしたのであります。私は、今こそ片時も忘れたことのないこの沖縄に来たという実感がひしひしと押し寄せてくるのを感じます。

九十万沖縄同胞のみなさんは、戦後の傷心と荒廃のなかにあつて、日本人としての誇りを失わず、あらゆる悪条件と戦い、郷土の再建と、産業経済の復興に挺身され、よく今日まで御努力いただきました。私は、みなさんの長い間堅持してこられたこの不撓不屈の精神に衷心から敬意を表したいのであります。

この二十年の間に、わが国は、世界各国が注目するような高度の経済発展をなし遂げ、その国際的地位も飛躍的に高まつてきたのであります。このようなわが国の復興にもかかわらず、沖縄については、依然戦争の傷痕の残つていることを感ぜざるを得ないのであります。

私は、沖縄の祖国復帰が実現しない限り、わが国にとつて「戦後」が終わつていないことを、よく承知しております。これはまた、一億日本国民みんなの認識でもあります。率直にいつて、緊張を続ける現下の国際情勢下において、今、直ちに沖縄の施政権返還を実現すること

とが困難な事情にありますが、私は、今後とも、あらゆる機会をとらえて、取残されたこの沖縄問題の解決にあたる決意であります。

そこで私は、住民の福祉の向上をはかり、本土復帰の日に備えて当地の行政水準を本土のレベルに接近させるため、できる限りの援助と協力を行なうこととそ本土政府の果たすべき当面の義務であると考えるのであります。

これより私は、今回の沖縄訪問に際し積極的に検討を重ねてまいりました諸問題について触れたいと思います。

まず、第一は教育についてであります。当地のみなさんの教育に対する熱意は、かの教育基本法の制定の経緯にもうかがわれるようにきわめて強いものがあることを心うれしく存じておるのでありますが、それにもかかわらず、なお義務教育については施設設備の面において、体育館、特別教室の不足、教科備品の未整備等が目立ち、教職員の待遇もなお本土に比し相当のへだたりがあるなど、意に満たない点が多いとのことであります。また高校、大学教育につきましても、施設設備収容力等において十分とはいい難く、なかんずく琉球大学に医学部が設置されていないことは、保健医療の面の後進性にも関連するものと思われます。私は、この教育面に関する援助の要望が全島的に高まりを示されているのにこたえ、援助拡大の第一の項目としてこれを採り上げ、ただ今挙げました諸種の問題を具体的に解決する措置をとりたいと考えております。

次は、社会福祉公衆衛生についてであります。当地におきましては、主として財政上の制約に起因して各種社会福祉制度の整備が立ちおくれ、また公衆衛生面についてもその地理的特殊性と相まつてなお相当

数の結核、ハンセン氏病、精神病の患者が医療施設に収容し切れずに、あるいは新たな感染源をなし、あるいは人道上の問題を提起している由でありますが、このような事態を一掃することは民生安定の根本であります。私は、これら問題に対処し、生活保護基準の改善、医師の派遣措置の強化、病床の増設、治療のための本土施設への収容者数の増加等について援助の飛躍的拡大をはかりたいと考えております。

第三に、産業対策についてであります。

砂糖きびとパインの栽培は当地の基本的産業でありますが、これについては貿易自由化との関連において生産の合理化が強く要請されている現状であります。さらに各種の中小企業の健全な育成も沖縄経済の発展にとつて欠くことのできない施策であります。私は、これらの目的を果たすべく長期低利の資金の供給を増大するため必要な措置をとりたいと考えております。

その他従来実施してまいりました各種援助につきましても、それぞれの必要性に応じ一層の強化をはかる所存であります。

以上述べました各種の施策につきましては、日米協議委員会の場において積極的に提案し当地において策定中の経済社会開発に関する長期計画とも密接に関連させながらその具体化をはかつてまいりたいと考えております。

私が今回、文部大臣、厚生大臣、総務長官、官房長官をはじめ、関係各省庁の責任者を同行せしめ、あわせて自由民主党幹事長をはじめとする国会議員諸君の参加を求めましたのも今申しましたような事項について具体的な構想を固め、その推進をはからんがためであります。

さらに当地の御出身であり常日頃私に対し、沖縄についての貴重な御

意見を寄せていただいている大浜先生にも　　に御同行いただきました。

最後に、当地における住民自治の現況について一言ふれさせていただきますと、最近、みなさん方の強い要望に応えて米国民政府の方針として、不必要な布告、布令の廃止、琉球政府への権限の委譲等の措置がとられております。私は、今後とともこの方針が一層推進され、琉球政府権限の拡大を見るとともに市町村等の地方自治体も充実強化されて、日本本土におけると同様な住民自治が達成されるよう望むものであります。幸い、ジョンソン米国大統領との会談の結果、日米協議委員会の権限が拡大されたことでもあり、今後は、日本政府としても、これらの分野における事態の改善に努力したいと存じます。

私は、琉球政府はじめ、沖縄要路の方々並びに住民各位が、私たち一行のために、かくも盛大な歓迎大会をお開き下さったことを、深く感謝いたします。切にみなさんの御健勝を祈つて御挨拶といたします。ありがとうございました。

秘

ワトソン高等弁務官主催晩餐会総理挨拶（案）

（八月十九日於フォート・バックナー将校クラブ）

今夕は、私をはじめ今回の日本政府からの訪沖団一行をワトソン高等弁務官が晩餐会に、御招待下さったことに対し、厚くお礼申し上げます。

昨年十二月ワトソン高等弁務官は、東京の総理官邸に私を訪問されました。私は、当時一月に訪米し、ジョンソン大統領と会談する計画を持っておりましたが、ワトソン将軍に対し、自分として沖縄をぜひ訪問したいという意向を示したのであります。将軍は、直ちに私を心から歓迎する旨述べられ、この訪問を意義あらしめるために今後とも協力して行こうと話合ったのであります。この私の希望が実現され、今回当地を訪れ、弁務官と再会することができましたことを、心から喜こんでおります。

私の今回の訪問が当地沖縄にとつてはいうまでもなく、あわせて日米両国の共通の利益の増進に役立つものであることを確信いたします。

また、私は、ワトソン高等弁務官が昨年八月着任以来、琉球政府の強化、民生安定のために努力していただいていることを、高く評価しております。私は、昨年弁務官の東京でのお言葉に、「私は奇蹟を起こすことはできない。」とありましたのを記憶しております。しかし、今日、私が、当地を訪れましての所感としては、弁務官の御努力が著しく効果を上げ、現地において好感をもつて迎えられていることに対し、いささかの誇張をお許しいただいた上で「奇蹟」という言葉で称讃いたしたいのであります。従来とられてきたこの方針が、さらにすすめられることをあらためてお願いするとともに、沖縄住民が、日本本土の住民と同じようなより高い福祉と、より充実した住民自治を享受しうるように、日

本政府といたしましても、これがために必要な経済援助その他各般の御協力を決して惜しむものではないことをお約束します。

私から、ここであらためて申し上げるまでもなく、ジョンソン米国大統領と、私との共同声明で明らかにされているごとく、私は、沖縄における米国の軍事施設が極東の安全のため重要であることを、十分認識しているものであり、したがつて、この任務に従事されている米軍関係者の御努力を多とするものであります。

と同時に、わが国は、外交内政を通じて、真の平和を国是としているのでありまして、私は、今日流動しているアジアの政治情勢の上に、一日も早く平和が確立されることを念願し、このために一層の努力をかたむけたいと決意しているのでありますが、これは沖縄の日本本土復帰という日本国民全体の悲願の道にも通じるものと思います。

終わりに、私たち一行の沖縄訪問に対し、ワトソン高等弁務官はじめ民政府の方々が、御丁寧周到な準備と、温い心遣いをもつて迎えてくださつたことに対し、一行を代表して感謝の意を表したいと存じます。

本日の好意のこもつた御招待に心からお礼を申し上げて私の御挨拶といたします。

秘

立法院議員に対する挨拶（案）

（八月二十日　於東急ホテル）

私は、沖縄訪問の機会に立法院議員各位にお会いして御挨拶を申し上げる機会を得ましたことを、非常にうれしく存じます。

私は、まず最初に、私の今回の訪問にあたり沖縄九十万同胞各位が示されました熱烈な歓迎に対し、衷心から感激し感銘していることをお伝えいたしたいと存じます。

また、戦禍の中から立ち上つて、この二十年の間、困難な諸条件の下で、よく今日の沖縄を築き上げられた官民各位の御苦労を高く評価いたします。とくに、立法院議員の各位は、再三の障害にも屈せず、遂に「日本人としての教育」という原則をうちたてられましたかの「教育基本法」の制定の経緯にも示されるように、特殊な施政形態の下にあつて、よくこの困難を克服し、沖縄九十万の民意を貫き沖縄の再建と自治の拡大に寄与されたことに対しては、深く感銘するところであります。

私は、ここに日本本土一億の国民も沖縄の施政権返還が一日も早く実現することを熱望していることを、みなさんにおつたえしたいと思います。私は、本年一月の訪米その他の機会に、施政権返還に対するこのような日本国民の願望を明白に米側に伝えてきたのであります。これに対し、米国側も、わが国民の施政権返還に対する願望を理解し、それが実現する日を待望している旨を明らかにしているのであります。また、米国は、沖縄が日本の施政下に復帰することを前提として、その場合の困難をもつとも少なくするための具体的施策を、わが国と協力して実施してゆくとの姿勢を示しております。日米協議委員会およ

び日米琉技術委員会は、その具体的な表われであります。

緊迫した現下のアジアの情勢にもかんがみ、施政権返還の時期についてなお具体的な見通しを立てうる段階には至つておりませんが、ただ今申し述べましたような沖縄を含めての日米協調の体制が、あくまで、沖縄の本土復帰を前提としたものであり、究極的には、施政権の返還につながつていることは、疑いの余地のないところであります。したがつて私は、施政権返還についての国民的要望を今後とも強く訴え続けるとともに、この沖縄の根本的課題をあくまで極東における日米協力体制の中で解決をはかつていく決意であることもこの際、あわせて申し上げておきたいのであります。

ただ、このような根本的な問題と同時に、私達は、同じように重要な当面の問題の存在を忘れてはならないと思うものであります。今日、現時点において沖縄にとつて最も緊要の問題は、民生の安定、経済の発展であります。これに対して私が、昨日の歓迎大会の席上で申し述べましたように本土政府としても各種の援助強化を用意いたしておりますが、立法院各位におかれてもそれぞれの立場においてこのことに力をつくされるようお願いいたします。

昨年ワトソン高等弁務官が着任されて以来、布告、布令の廃止、民政府権限の移譲等を通じて、琉球政府の強化をはかられる一方、渡航制限の緩和、言論自由の拡大等の措置がとられてきていることについては、本土政府としても好感をもつて迎えているところでありますが、このことにつきましても、みなさん方の絶えざる努力に負うところの少なからぬものがあると考えております。今後も引き続き高い誇りの下に沖縄の繁栄に連なる指導的役割を果たされるよう祈念いたします。

そこで、これに関連いたしまして、同じ議会人として、私が、常日頃考え、かつ、実行を心掛けておりますところの所信の一端を表明させていただくことをお許し願いたいと思います。

私は、かねがね政治の要諦は、国民の信頼を得ることにあると考えております。そして国政に対する信頼は政治家に対する信頼に始まるのであります。国政を担当する者は政治家の使命と責任を深く自覚し、みずからの姿勢を正してその職責を果たしてまいらなければなりません。そして国民の要望するところを勇気をもつて、実行する責任ある政治を行なうことこそ国民の信頼を得る所以であると思います。

私は、この決意で日々の政治に取り組んでおる次第でございますが、同じ日本の一部である当地沖縄がやむをえぬ事情の下に本土を離れ、みなさん方の手にゆだねられているのであります。どうかこの私の心をおくみ取りいただき、共々に同じ道を歩んでいただきますようお願い申し上げます。どうか立法院議員各位におかれてはいよいよ御自愛の上沖縄の発展のために御健闘下さい。

本日は、お暑いところわざわざ御参集いただきましてありがとうございました。これをもつて御挨拶いたします。

名護町における挨拶（案）

（八月二十日　於名護町総合グランド）

皆さん、お暑いさ中にかかわらず、かくも多数の方々が、私共一行を歓迎していただいたことに対し、厚く御礼申し上げます。

私共は、昨日南部の戦跡を巡拝し、その当時の犠牲の大きさ、いたましさにあらためて胸の痛む思いを受けました。更に、その往復の途次、或いは今日、この名護にまいります途中の空から望見しました田畑の有様や、那覇、名護の町並をみて、あの当時一木一草をもとどめないまでに荒廃に帰したこの地を、よくぞここまで復興されたとの感慨に思わず襟を正したのであります。

私が、此の地を訪れましたのは、戦争末期における最大の激戦地として、多大の犠牲を払われ、しかも戦後二十年にわたつて、特殊な事情のもとに、数々の悪条件を克服して、復興と再建に邁進されている沖縄九十万の同胞の方々に対し、本土同胞の涙と、できる限りの援助の意志をお伝えしたかつたからであります。また、私共自身、直接に皆さん方に接し、この目で皆さんの活躍を拝見し、沖縄の実情を肌で感じとり、今後の沖縄に対する施策に強く反映してゆく決意であります。

今日、これから予定されておりますところの、此の地区の各界代表の方々との懇談、また那覇に帰りまして、伸縮全域を代表される方々との懇談において、私共一行は、更に真剣な勉強をさせていただきたいと思います。僅か二泊三日の短い日程でありますが、これを出来るだけ効果

的に活用し、皆さん方の御要望を十分伺つて、本土へ持ち帰り、これらの実現に全力を傾ける所存であります。どうか今後とも御健勝にあられることをお祈りいたします。

本日はまことにありがとうございました。

秘

総理主催晩餐会における総理挨拶

（八月二十日於東急ホテル）

今夕は、皆様方を御招待いたしましたところ、御多忙中にもかかわらず、ワトソン高等弁務官、松岡行政主席をはじめ多数の方々の御出席をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

私は、昨日那覇空港に到着以来、南部戦跡の巡拝をはじめ米軍事施設、各公共施設等の視察を行なうとともに、ワトソン高等弁務官との会見をはじめ、沖縄本島における各界の方々との懇談を行ない、本日をもつて沖縄本島における私の訪問予定を無事終了することができました。

私は、この二日間の視察により、沖縄の現実の姿を知る貴重な体験をし、また沖縄に対する認識を一層深めるのに役立つたものと考えます。この間の関係の方々の行き届いた御配慮に対し、ここにあつくお礼申し上げます。

戦後、わが国は、平和な福祉国家の建設をめざして、各方面で高い水準の成長を遂げることができたのでありますが、私は、これを可能にした要因は、わが国が民主主義の原則に基づき国民の自由意志による活動を十分に行なわしめうる体制を、堅持したことにあると思います。そして、この民主主義の原則は、現代における世界一般に妥当する支配的な原理であるものと信ずるものであります。

私は、本年一月のジョンソン米国大統領との会談において、沖縄の施政権返還と、沖縄住民の自治の拡大及び福祉の一層の向上に対する関心を表明したのでありますが、これに対し、大統領は、施政権返還に対する日本の政府及び国民の願望に対して、理解を示し、極東にお

ける自由世界の安全保障上の利益が、この願望の実現を許す日を待望していると述べられたのであります。私は、極東における平和を希求し、沖縄の本土復帰が、すみやかに行なわれることを強く希望するものでありますが、この日本国民の悲願が、実現をみるまでの間は、沖縄の施政各般において、民主主義に基づく諸原則が、一層拡充強化され、住民自治の拡大と住民福祉の向上が図られることを、期待するものであります。このことは、単に、沖縄住民のためのみに止まらず、日米琉三者の共通の利益を増進するために、役立つものと考えられます。

沖縄は、戦禍の中から立ち上つて、よく今日の状態にまで到達されました。これは民政府、琉球政府及び民間の三者協力により種々の困難を一つ一つ乗り越えられた御努力の成果であり、深く感銘いたしたのであります。今後さらに進歩を重ね、建設にいそしみ、やがては沖縄の住民が、日本本土の住民と同じようなより高い福祉と、より充実した住民自治を享受しうるようにすることが目標でなければなりません。今後における皆さま方の一層の御努力にまつところきわめて大きいのでありますが、日本政府といたしましても、これがために必要な経済援助、その他各般の御協力を、積極的に行なつてまいる所存でありますので、御協力をお願いいたします。

本日は、まことにありがとうございました。

Embargoed until actual
delivery of the speech

Prime Minister Sato's Statement
at Naha International Air-port

My Fellow Citizens;

As my long cherished desire to visit Okinawa is here realized, and deeply moved by seeing you all here, I am at loss to find fitting words to express my feelings. During these past twenty years since the islands of Okinawa were separated from mainland Japan, we have never lost thought of our nine hundred thousands compatriots of Okinawa. We on the mainland should like to express our respect and gratitude to you all for all the toils you have endured.

I am most well aware that the post-war period is not over for Japan unless and until Okinawa's return to its home country is realized. This is one belief that all the people on the mainland share. I have decided to make this visit above all to convey to you this thought of ours in behalf of the people living on mainland Japan.

When I visited the United States last January, I strongly expressed our desire to President Johnson that the administrative control over these islands will be restored to Japan as soon as possible. We agreed that the United States and Japan will cooperate together for further stabilization and advancement of welfare and well-being of the people of Okinawa. It is upon this fundamental position, that I wish to incorporate into the policies of the Japanese Government for Okinawa what I will be able to learn with my own ears and eyes about the realities of Okinawa this time. This is my responsibility and the only way to respond to your hopes.

I should like to express my gratitude to the heart-warming welcome extended to me by the nine hundred thousand fellow citizens of Okinawa and my deep gratitude goes to General Watson, Mr. Matsuoka and other officials for their warm reception here.

Embargoed until actual
delivery of the speech

Address by Prime Minister Eisaku Sato
at the Welcoming Reception held at Kokuei-kan Theatre
on August 19

Ladies and gentlemen,

It gives me a great joy that my long-cherished desire of visiting Okinawa has now been fulfilled. When I landed at the Naha International Airport a short while ago, I could read the passage of the past twenty years in Okinawa in the depth of the looks of our compatriots who had gathered there to welcome me. The sight of hundreds of Japanese national flags in Okinawa and the earnest expressions on their faces created a truly deep impression on me. Standing here before this welcoming reception and meeting you, ladies and gentlemen, this impression has been renewed. I now actually feel that I am at last in Okinawa, a land I have never once forgotten. This feeling has completely filled my heart. I pray here that one hundred and eighty thousand souls of war deads, rest in peace and should like to express my most heartfelt condolences to the remaining members of their families.

Our nine hundred thousand compatriots in Okinawa, having never lost their pride as Japanese even in the distress and devastation of the postwar days, have made admirable efforts to reconstruct their land as well as their industries and economy in the face of all sorts of unfavourable conditions. To this indomitable spirit that you have retained for such a long time, I pay respects from the very depth of my heart.

During the past twenty years, our country has achieved a high rate of economic development that has attracted the attention of all the countries of the world and its international status has been rapidly elevated. I cannot but feel, however, that, in spite of this recovery of our country, as far as Okinawa is concerned, there still remain the scars of the last war.

I am well aware that the post-war period is not over for Japan unless Okinawa's return to its home country is realized. This is also, recognized by all the one hundred million people of the Japanese nation. I am determined to continue to avail myself of every opportunity to solve this pending problem.

Japan, allied with the United States by the Mutual Cooperation and Security Treaty, has cooperative relations with her as a partner.

And the Ryukyu Islands are playing a very important role for peace and security of Far East. I firmly believe that without the security of the Ryukyu Islands the security of mainland Japan is not guaranteed, and nor without the security of mainland Japan are the Ryukyu Islands secure.

I am aware that under the administration of the United States in the past twenty years since the end of the war economy and the welfare of the people have made a considerable progress. In particular I highly esteem the enthusiasm of the United States Government and the Civil Administration of the Ryukyus have shown in these regards in recent years.

There is no doubt, however, that there still exists a considerable gap between the conditions of Okinawa and those of mainland Japan, and are many areas where improvements are needed.

Upon these fundamental understandings, I should like to state that the immediate duty for the home government to discharge is to extend as much assistance and co-operation as possible in order to advance further the welfare of the inhabitants and to raise the administrative standards in Okinawa to the level of those in the mainland Japan in preparation for the day when Okinawa is returned to its mother country.

I should now like to touch upon those problems about which I have positively made repeated studies in connection with my visit here.

The first is the problem of education. I am glad an encouraged that you, the inhabitants of Okinawa, have evidenced a strong enthusiasm toward education as witnessed in your enactment of the Fundamental Law of Education. Despite this fact, however, compulsory education in Okinawa is not necessarily in satisfactory condition in various aspects as it is compared to that in mainland Japan. In response to strongly expressed wishes from all over the islands for assistance regarding education, I am intending to take this up as the first item in increasing our assistance and to take concrete measures to solve the various problems of education.

Next is the problem of social welfare and public health. I have been told that provisions for various social welfare systems are retarded in Okinawa. There still remain in the field of public health a considerable number of patients suffering from tuberculosis, Hansen's disease or mental diseases who are not accommodated in medical facilities partly because of local geographical peculiarities, thus creating a problem from a humanitarian point of view. To sweep away such a situation is the very basis of well-being. In order to cope with these problems, I am considering a rapid expansion of our assistance, in order to achieve such results as raising the standard of public

assistance for the needy, strengthening measures for sending medical doctors, increasing the number of beds for patients and also increasing accommodations for the medical treatment of local patients in facilities in mainland Japan.

Thirdly, measures for industries. As regards such industries as cultivation of sugar canes and pineapples, which are the basic industries here, there are strong demands for rationalizing the production process to strengthen their ability to compete in international market. The healthy promotion of various medium and small enterprises is also an indispensable measure for the development of Okinawa's economy. In order to achieve these purposes, I am thinking of taking necessary steps for increasing the supply of funds on a long-term, low-interest basis.

With regard to the various forms of assistance which we have already been carrying into effect, I intend further to intensify them according to their respective requirements.

With a view to implementing the various measures I have just mentioned, I am considering making positive proposals at the Japan-United States Consultative Committee, while closely correlating these measures with the long-range plan for economic and social development now being worked out by local authorities here.

I have brought with me the Minister of Education, the Minister of Public Welfare, the Director-General of my office, the Secretary General of the Cabinet and responsible high officials of the various Ministries concerned. I have also asked the Secretary General of the Liberal-Democratic Party and some other members of the National Diet to join me in visiting here. The reason for this is that I should like to take the opportunity of my visit to crystalize our ideas concerning the aforementioned problems and to promote their implementation. Furthermore, I am pleased to have with us Dr. Ohama who comes from Okinawa and has always been providing me with valuable ideas concerning this area.

Before concluding my speech, I should like briefly to speak about the present state of the autonomy of the inhabitants of Okinawa. In response to your strong wishes, the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands, as a matter of policy, has implemented certain measures such as the abolition of unnecessary proclamations and ordinances and the transfer of certain authority to the Government of the Ryukyu Islands. It is my hope that this policy of the USCAR will be further advanced, that the authority of the Government of the Ryukyu Islands will be extended while such local self-governing

bodies as cities, towns and villages will be substantially strengthened, and that self-government by the citizens of Okinawa can thus reach a level such as is being enjoyed in Japan proper. Also it is hoped that in order to activate and facilitate the travel between the Okinawa and mainland Japan the procedure to obtain travel permit will be further simplified. Fortunately, the functions of the Japan-United States Consultative Committee have been broadened as a result of my talks with President Johnson of the United States of America. The Government of Japan wishes to help improve the present conditions in these fields more actively than before.

Last but not least, I should like to express my deep gratitude to the Government of the Ryukyu Islands and other local organizations as well as to all the people of Okinawa for holding such a splendid welcoming reception for myself and my party. Now, may I wish continued good health to each and every one of you.

Thank you very much.

Embargoed until actual
delivery of the speech

Prime Minister Sato's Address
at the Dinner hosted by High Commissioner

General Watson, the Honorable Mr. Matsuoka, Excellencies,

I should like to express my most sincere gratitude to General Watson for honoring us with this wonderful dinner.

Last December, just as I was making preparations for my trip to the United States to meet President Johnson, General Watson called on me at my official residence. Then I expressed to him my desire to visit the Ryukyu Islands. He replied that he would heartily welcome me and co-operate with me to make my visit a truly meaningful one. I am heartily gratified that my desire has been fulfilled and I am very glad to have this opportunity to meet High Commissioner again.

I believe firmly that my visit will be of value not only to the interest of the Ryukyu Islands alone but also for the common interest of the United States and Japan.

I deeply appreciate what General Watson as High Commissioner has done to strengthen the functions of the Government of the Ryukyu Islands as well as for the stabilization of the people's welfare. I remember him modestly telling me when we met in Tokyo that he would not be able to achieve miracles. Yet, my impression here is that the efforts of the High Commissioner has brought about remarkable results and particularly here further deepened the mutual trust and cooperative spirit between the Civil Administration of the Ryukyu Islands and the people of Okinawa. As I have observed them with my own eyes, I should like to offer my heartfelt respect to him. I do hope that the policy lines hitherto implemented will be further promoted. And I hereby promise that the Japanese Government will spare no effort in extending either economic assistance or other forms of co-operation to enable the inhabitants of the Ryukyu Islands to enjoy the high level of welfare obtainable in the mainland as well as a high degree of local autonomy. As it was made clear in the Joint Communique between President Johnson and myself, the importance for peace and security of Far East of the military installations of the United States on the Ryukyu Islands need not be elaborated upon. We appreciate very much the works the people engaged in the military services here are doing.

It is the principal national objective of Japan to seek peace both in foreign and domestic policies. I am determined to work towards bringing about peace and stability in Asia which today is charged with difficult problems. And this effort, I believe, will pave a way eventually towards realizing the ardent desire of all of the Japanese people for the return of the Ryukyu to mainland Japan.

Finally in behalf of the members of the group, I should like to express my deepest gratitude to General Watson and the people in the United States Civil Administration of the Ryukyus for their very warm welcome and for the most thoughtful care with which they have made the arrangements for our visit.

Thank you.

4-1

Embargoed until actual
delivery of the speech

Address by Prime Minister Sato
to the Legislative Members
on August 20, at Tokyu Hotel

It is a great pleasure for me to be given, on the occasion of my visit to Okinawa, an opportunity to deliver an address to the Legislative members.

I wish to tell you, first of all, that I am deeply moved by the warm-hearted welcome shown to me by our nine hundred thousand compatriots in Okinawa.

I should like to pay my highest respects to the strenuous efforts of the officials and the citizens of Okinawa who have arisen from the ruins of the War and reconstructed the Islands to the extent we see here today, despite many unfavourable conditions. In particular, I am deeply impressed by the contribution of the Legislative members, as shown in the case of the enactment of the Fundamental Law of Education which established the principle of "Education as Japanese", toward the reconstruction of the land and the enlargement of the political autonomy of Okinawa to fulfill the desires of the 900,000 inhabitants, overcoming the difficulties arising from the peculiar status of the islands.

I wish to convey to you the strong desire of your one hundred million mainland compatriots for the earliest restoration of administrative control over Okinawa to Japan. I clearly have informed the United States authorities of this desire on such occasions as my visit to that country in January this year. The United States Government has shown its understanding of this desire of ours, and stated that they are looking forward to the day when the desire of the Japanese people can be fulfilled. The United States Government has shown its desire to carry out, in cooperation with our Government, those concrete measures which minimize the stresses that will accompany the anticipated eventual restoration of Okinawa to Japanese administration. The establishment of the Japan-U.S. Consultative Committee and of the Japan-U.S.-Ryukyu Technical Committee is manifestation of this desire.

4-2

There is no room for doubt that the system of Japan-United States cooperation which includes Okinawa, stands, in the final analysis, on the premise that Okinawa will be returned to its home country, and that this will ultimately lead to the restoration of administrative control to Japan. Thus, I should like to state here that I will continue to express strongly our national desire for the restoration of administrative control, and to solve this fundamental problem of Okinawa within the framework of Japan-United States cooperation.

At the same time, we must not forget the presence of the pending problems which are equally important. The most important problems Okinawa faces at present are promotion of education, stabilization of the people's living and development of its economy. As I stated at the welcoming reception yesterday, the national government in Tokyo is prepared to strengthen its assistance of various kinds but I also ask that all of you, as legislative members, make your best efforts in your own fields to cope with these problems.

Since assuming the office of High Commissioner last year, Lieut. General Albert Watson II strengthened the Government of the Ryukyu Islands through such measures as the abolition of proclamations and ordinances and the transfer of powers of the Civil Administration to the Government, and, at the same time, steps have been taken to relax the restrictions on overseas travel and to enlarge the freedom of speech, and so forth. The national government, too, welcomes these measures, most of which, we consider, are attributable in a great measure to your unceasing efforts. I pray that all Legislative members will continue to play, with pride, a leading role in bringing about the prosperity of Okinawa.

I am deeply conscious of my mission and responsibility as the one at the helm of the national government. Okinawa, which is a part of Japan, has been separated from the homeland by the force of unavoidable circumstances and has been left in your hands. It is my hope that I may have your understanding and sympathy and that we can walk the same path together for the further development of the Japanese people. I pray that each member of this Legislature may enjoy the best of health and in this way endeavour to work for the greater development of Okinawa.

4-3

I deeply appreciate your coming over to meet me here today in the heat of this weather.

Thank you very much.

5

Embargoed until actual
delivery of the speech

Statement of Prime Minister Sato
at Nago Ground on August 20

Ladies and gentlemen,

I heartily thank all of you for coming here today to welcome us despite the heat of the day.

Yesterday we visited old battlefields in the southern part of the Island and it wrung my heart to think of the enormous and sad sacrifices you had made. On the trip to there and back and rom a helicopter tour around this area, I have seen the green lands and rows of houses in Naha and Nago. This has brought to me a feeling of deep respect for the efforts you have taken to rehabilitate the land, so devastated that no single tree or grass had remained at the end of the war.

I have come here to convey to you the encouragement of your mainland brethren and to express their desire to offer every possible assistance to you, the 900,000 people who made the greatest sacrifice in the last stage of the War in a land which became the scene of the fiercest battle and who have been striving to overcome immense difficulties to rehabilitate and reconstruct ur land which has been separated from Japan proper for twenty ears after the war as a result of special circumstances. We intend to personally contact your people, see your activities with our own res and to come to understand the real situation. I am resolved at the fruits of our study will be duly reflected in the Government's measures toward Okinawa.

The members of my party and I will try to learn as much as possible from our scheduled talks with the representatives of this district here today and with those of Okinawa as a whole back in Naha. In closing, may I wish you all in Nago the best of good health in the future.

Thank you very much.

Embargoed until actual
delivery of the speech

Address by Prime Minister Sato
at Dinner given by the Prime Minister
August 20, Tokyu Hotel

General Watson, the Honorable Mr. Matsuoka, Excellencies,

I am happy to have here with us many distinguished guests tonight. And I should like to express my gratitude to you all for your presence.

Since I arrived at Naha Airport yesterday, I have visited the sites of the battles of the last war, inspected the military installations and other public establishments, and had meetings with the leading figures in various field of activities. Thus, today I completed my fruitful schedule in the main islands of Okinawa.

I believe that the two days' visit here has given me precious experiences which have served a great deal to further deepen my understanding of the present conditions of Okinawa. I am indeed grateful to all concerned for the perfect arrangements they have made to make my visit fruitful.

Since I assume the office of Prime Minister, I have regarded the problem of Okinawa as one of the most important issues. Thus when I met with President Johnson in January this year, I expressed our desire for the restoration to Japan of the administrative control of Okinawa, for the expansion of the autonomy of the inhabitants on the islands of Okinawa as well as for the further promotion of their welfare. The President appreciated the desire of the Government and people of Japan for the restoration of administration to Japan, and stated that he looks forward to the day when the security interests of the Free World in the Far East will permit the realization of this desire. I strongly hope for peace in Far East and for an early restoration of Okinawa. Until this national desire of the Japanese people can be realized, I hope that democratic principles will be further strengthened in this area and that autonomy and welfare will be further promoted.

Since

Since the end of the War, Japan has made a high rate of progress in various fields towards forming a peaceful welfare state, and I believe this was made possible by firmly maintaining a democratic system under which the wills of the people are given every chance for realization. I believe that this system of democracy is prevailing principle which should be applied to the present-day world in general.

Emerging from a complete destruction by the war, Okinawa still has achieved the present conditions. I am deeply impressed by this achievement, which I believe was made possible by the concerted efforts of the Civil Administration of the Ryukyu Islands, the Government of Okinawa and the people in overcoming many a difficuly one by one. Our objective now is to continue this progress and proceed with the works of construction and make the people of the Ryukyu Islands enjoy the fruits of democracy. In this regard, a great deal depends upon your further efforts. The Government of Japan on its part, making my visit a new starting point, will actively extend necessary economic and other assistance.

Thank you very much.

Embargoed until actual
delivery of the speech

Statement of Prime Minister Sato
at Ishigaki Airport on August 21

I heartily thank all of you for coming here today to welcome us in this heat of the day.

We have come here after completing our two day program in the main island.

First, I wish to convey the warmest expressions of encouragement of your brethren on mainland Japan to you who have been striving to overcome many difficulties in the rehabilitation and reconstruction of your land for the twenty-odd years since the last stage of the War. I cannot but pay my deep respects to you for the indomitable spirit with which you have reconstructed your island to the level we see here now.

Today, I am hoping to see with my own eyes what you have done and what you are doing and listen to what you have to say to me, in the hope that we shall, in communicating your wishes to our people at home, be able to promote a sense of identity between Okinawa and mainland Japan.

Although this is my first visit to Ishigakijima, I have some acquaintances in this island. One week before my departure for Okinawa, I was surrounded in my official residence by young little pressmen from this island. These were the junior high school pupils who were visiting mainland Japan for the summer vacation. These boys and girls said to me, "We cannot see Japanese TV programs on our island. Please let us see them." I felt that these yound people were speaking for all the inhabitants of the island. I shall give my immediate attention to the establishment of a TV station which you so earnestly desire, and try to see that you can view the same programs as those back home as soon as possible.

In closing, I sincerely wish all of you continued good health in the future.

Thank you very much.

Embargoed until actual
delivery of the speech

Statement of Prime Minister Sato
at Miyako Airport on August 21

I heartily thank all of you for coming here today to welcome us in this heat of the day.

We have come here after completing our two day program in the main island.

First, I wish to convey the warmest expressions of encouragement of your brethren on mainland Japan to you who have been striving to overcome many difficulties in the rehabilitation and reconstruction of your land for the twenty-odd years since the last stage of the War.

I have been told of the great sacrifices made by the people in Miyako where a Japanese army base was located and that the scars of the War still remain to be healed. I cannot but pay my deep respects to you for the indomitable spirit with which you have reconstructed your island to the level we see here now.

Today, I am hoping to see with my own eyes what you have done and what you are doing and listen to what you have to say to me, in the hope that we shall, in communicating your wishes to our people at home, be able to promote a sense of identity between Okinawa and mainland Japan.

Although this is my first visit to Miyakojima, I have some acquaintances in this island. One week before my departure for Okinawa, I was surrounded in my official residence by young little pressmen from this island. These were the junior high school pupils who were visiting mainland Japan for the summer vacation. These boys and girls said to me, "We cannot see Japanese TV programmes on our island. Please let us see them." I felt that these young people were speaking for all the inhabitants of the island. I shall give my immediate attention to the establishment of a TV station which you so earnestly desire, and try to see that you can view the same programs as those back home as soon as possible.

In closing, I sincerely wish all of you continued good health in the future.

Thank you very much.

9

Embargoed until actual
delivery of the speech

Remarks by Prime Minister Sato
on leaving Okinawa

Now that my schedule in Okinawa is finished and as I take leave of the islands I should like to express my sincere gratitude for the gracious reception and enthusiastic support Okinawa's 900 thousand compatriots extended to me during my stay here.

As I paid tribute to the war memorials where lie the spirits of 180 thousand brave people who died in the last war, I ponder anew the meaning of the peace we are enjoying today, which is built upon these noble victims.

Okinawa plays an important role in safeguarding peace and freedom in Far East. I indeed appreciate the toils which 900 thousand people of Okinawa endured during the past twenty years. It need hardly be reiterated here that the restoration to Japan of the administrative control of Okinawa is a national desire not only of the people of Okinawa but of the whole Japanese nation, and I pledge that I will exert further efforts to realize this desire. Pending the restoration of administration, the most important and urgent problem is to promote welfare in Okinawa and remove social and economic gaps existing between Okinawa and Japan proper.

During my visit, I keenly felt the need to further promote economic and cultural exchanges between mainland Japan and Okinawa and thereby to deepen the sense of kinship between the peoples of Okinawa and mainland Japan. I shall study the specific methods to materialize this aim.

Let me tell you here that I am determined to endeavour to incorporate into Japan's future policy towards Okinawa the valuable experience and understanding gained through this visit, and to help bring about the happiness of the people of Okinawa.

General Watson, other members of the Civil Administration of the Ryukyu Islands, the Honourable Mr. Matsuoka, the Honourable Mr. Nagamine, other leaders of the Government of the Ryukyu Islands, representatives in the field of industry, culture, education, public welfare and other activities: I thank you all for your kindness shown to me during my three day visit.

I wish the very best health and success of 900 thousand compatriots of Okinawa.

第25号

Embargoed until actual
delivery of the speech

Address by Prime Minister Sato
at Dinner given by the Prime Minister
August 20, Tokyu Hotel

General Watson, the Honorable Mr. Matsuoka, Excellencies,

I am happy to have here with us many distinguished guests tonight. And I should like to express my gratitude to you all for your presence.

Since I arrived at Naha Airport yesterday, I have visited the sites of the battles of the last war, inspected the military installations and other public establishments, and had meetings with the leading figures in various field of activites. Thus, today I completed my fruitful schedule in the main islands of Okinawa.

I believe that the two days' visit here has given me precious experiences and served a great deal to further deepen my understanding of the present conditions of the Ryukyu islands. I am indeed grateful to all concerned for the perfect arrangements they have made to make my visit fruitful.

Since I assume the office of Prime Minister, I have regarded the problem of the Ryukyu Islands as one of the most important issues. When I met with President Johnson in January this year, I expressed our desire for the restoration to Japan of the administrative control of the Ryukyu Islands, for the expansion of the autonomy of the inhabitants of the Ryukyu Islands as well as for the further promotion of their welfare. The President appreciated the desire of the Government and people of Japan for the restoration of administration to Japan, and stated that he looks forward to the day when the security interests of the Free World in the Far East will permit the realization of this desire. I strongly hope for peace in Far East and for an early restoration of the Ryukyu Islands to Japan. Until this national desire of the Japanese people can be realized, I hope that democratic principles will be further promoted in this area and that the expansion of autonomy and promotion of welfare will be realized.

Since the end of the War, Japan has made a high rate of progress in various fields towards forming a peaceful welfare state, and I believe this was made possible by firmly maintaining a democratic system under which the wills of the people are given every chance

for realization. I believe that this system of democracy is prevailing principle which should be applied to the present-day world in general.

The Ryukyus have achieved the present conditions emerging from a complete destruction by the war. I am deeply impressed by this achievement, which was made possible by overcoming a number of difficulties one by one through concerted efforts of the Civil Administration of the Ryukyu Islands, the Government of the Ryukyu Islands and the people of Okinawa. Our objective now is to continue this progress and proceed with the works of construction and make the people of the Ryukyu Islands enjoy the fruits of democracy. In this regard, a great deal depends upon your further efforts. The Government of Japan on its part, making my visit a new starting point, will actively extend necessary economic and other assistance.

Thank you very much.

Embargoed until actual
delivery of the speech
on 19 Aug. 1965

Prime Minister Sato's Statement
at Naha International Air-port

My Fellow Citizens;

As my long cherished desire to visit Okinawa is here realized, and deeply moved by seeing you all here, I am at loss to find fitting words to express my feelings. During these past twenty years since the islands of Okinawa were separated from mainland Japan, we have never lost thought of our nine hundred thousands compatriots of Okinawa. We on the mainland should like to express our respect and gratitude to you all for all the toils you have endured.

I am most well aware that the post-war period is not over for Japan unless and until Okinawa's return to its home country is realized. This is one belief that all the people on the mainland share. I have decided to make this visit above all to convey to you this thought of ours in behalf of the people living on mainland Japan.

When I visited the United States last January, I strongly expressed our desire to President Johnson that the administrative control over these islands will be restored to Japan as soon as possible. We agreed that the United States and Japan will cooperate together for further stabilization and advancement of welfare and well-being of the people of Okinawa. It is upon this fundamental position, that I wish to incorporate into the policies of the Japanese Government for Okinawa what I will be able to learn with my own ears and eyes about the realities of Okinawa this time. This is my responsibility and the only way to respond to your hopes.

I should like to express my gratitude to the heart-warming welcome extended to me by the nine hundred thousand fellow citizens of Okinawa and my deep gratitude goes to General Watson, Mr. Matsuoka and other officials for their warm reception here.

Embargoed until actual
delivery of the speech
on 19 Aug. 1965

Address by Prime Minister Eisaku Sato
at the Welcoming Reception held at Kokuei-kan Theatre
on August 19

Ladies and gentlemen,

It gives me a great joy that my long-cherished desire of visiting Okinawa has now been fulfilled. When I landed at the Naha International Airport a short while ago, I could read the passage of the past twenty years in Okinawa in the depth of the looks of our compatriots who had gathered there to welcome me. The sight of hundreds of Japanese national flags in Okinawa and the earnest expressions on their faces created a truly deep impression on me. Standing here before this welcoming reception and meeting you, ladies and gentlemen, this impression has been renewed. I now actually feel that I am at last in Okinawa, a land I have never once forgotten. This feeling has completely filled my heart. I pray here that one hundred and eighty thousand souls of war deads, rest in peace and should like to express my most heartfelt condolences to the rémaining members of their families.

Our nine hundred thousand compatriots in Okinawa, having never lost their pride as Japanese even in the distress and devastation of the postwar days, have made admirable efforts to reconstruct their land as well as their industries and economy in the face of all sorts of unfavourable conditions. To this indomitable spirit that you have retained for such a long time, I pay respects from the very depth of my heart.

During the past twenty years, our country has achieved a high rate of economic development that has attracted the attention of all the countries of the world and its international status has been rapidly elevated. I cannot but feel, however, that, in spite of this recovery of our country, as far as Okinawa is concerned, there still remain the scars of the last war.

I am well aware that the post-war period is not over for Japan unless Okinawa's return to its home country is realized. This is also, recognized by all the one hundred million people of the Japanese nation. I am deter ined to continue to avail myself of every opportunity to solve this pending problem.

Japan, allied with the United States by the Mutual Cooperation and Security Treaty, has cooperative relations with her as a partner.

And the Ryukyu Islands are playing a very important role for peace and security of Far East. I firmly believe that without the security of the Ryukyu Islands the security of mainland Japan is not guaranteed, and nor without the security of mainland Japan are the Ryukyu Islands secure.

I am aware that under the administration of the United States in the past twenty years since the end of the war economy and the welfare of the people have made a considerable progress. In particular I highly esteem the enthusiasm of the United States Government and the Civil Administration of the Ryukyus have shown in these regards in recent years.

There is no doubt, however, that there still exists a considerable gap between the conditions of Okinawa and those of mainland Japan, and are many areas where improvements are needed.

Upon these fundamental understandings, I should like to state that the immediate duty for the home government to discharge is to extend as much assistance and co-operation as possible in order to advance further the welfare of the inhabitants and to raise the administrative standards in Okinawa to the level of those in the mainland Japan in preparation for the day when Okinawa is returned to its mother country.

I should now like to touch upon those problems about which I have positively made repeated studies in connection with my visit here.

The first is the problem of education. I am glad an encouraged that you, the inhabitants of Okinawa, have evidenced a strong enthusiasm toward education as witnessed in your enactment of the Fundamental Law of Education. Despite this fact, however, compulsory education in Okinawa is not necessarily in satisfactory condition in various aspects as it is compared to that in mainland Japan. In response to strongly expressed wishes from all over the islands for assistance regarding education, I am intending to take this up as the first item in increasing our assistance and to take concrete measures to solve the various problems of education.

Next is the problem of social welfare and public health. I have been told that provisions for various social welfare systems are retarded in Okinawa. There still remain in the field of public health a considerable number of patients suffering from tuberculosis, Hansen's disease or mental diseases who are not accommodated in medical facilities partly because of local geographical peculiarities, thus creating a problem from a humanitarian point of view. To sweep away such a situation is the very basis of well-being. In order to cope with these problems, I am considering a rapid expansion of our assistance, in order to achieve such results as raising the standard of public

assistance for the needy, strengthening measures for sending medical doctors, increasing the number of beds for patients and also increasing accommodations for the medical treatment of local patients in facilities in mainland Japan.

Thirdly, measures for industries. As regards such industries as cultivation of sugar canes and pineapples, which are the basic industries here, there are strong demands for rationalizing the production process to strengthen their ability to compete in international market. The healthy promotion of various medium and small enterprises is also an indispensable measure for the development of Okinawa's economy. In order to achieve these purposes, I am thinking of taking necessary steps for increasing the supply of funds on a long-term, low-interest basis.

With regard to the various forms of assistance which we have already been carrying into effect, I intend further to intensify them according to their respective requirements.

With a view to implementing the various measures I have just mentioned, I am considering making positive proposals at the Japan-United States Consultative Committee, while closely correlating these measures with the long-range plan for economic and social development now being worked out by local authorities here.

I have brought with me the Minister of Education, the Minister of Public Welfare, the Director-General of my office, the Secretary General of the Cabinet and responsible high officials of the various Ministries concerned. I have also asked the Secretary General of the Liberal-Democratic Party and some other members of the National Diet to join me in visiting here. The reason for this is that I should like to take the opportunity of my visit to crystalize our ideas concerning the aforementioned problems and to promote their implementation. Furthermore, I am pleased to have with us Dr. Ohama who comes from Okinawa and has always been providing me with valuable ideas concerning this area.

Before concluding my speech, I should like briefly to speak about the present state of the autonomy of the inhabitants of Okinawa. In response to your strong wishes, the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands, as a matter of policy, has implemented certain measures such as the abolition of unnecessary proclamations and ordinances and the transfer of certain authority to the Government of the Ryukyu Islands. It is my hope that this policy of the USCAR will be further advanced, that the authority of the Government of the Ryukyu Islands will be extended while such local self-governing

bodies as cities, towns and villages will be substantially strengthened, and that self-government by the citizens of Okinawa can thus reach a level such as is being enjoyed in Japan proper. Also it is hoped that in order to activate and facilitate the travel between the Okinawa and mainland Japan the procedure to obtain travel permit will be further simplified. Fortunately, the functions of the Japan-United States Consultative Committee have been broadened as a result of my talks with President Johnson of the United States of America. The Government of Japan wishes to help improve the present conditions in these fields more actively than before.

Last but not least, I should like to express my deep gratitude to the Government of the Ryukyu Islands and other local organizations as well as to all the people of Okinawa for holding such a splendid welcoming reception for myself and my party. Now, may I wish continued good health to each and every one of you.

Thank you very much.

Embargoed until actual
delivery of the speech
on 19 Aug. 1965

Prime Minister Sato's Address
at the Dinner hosted by High Commissioner

General Watson, the Honorable Mr. Matsuoka, Excellencies,

I should like to express my most sincere gratitude to General Watson for honoring us with this wonderful dinner.

Last December, just as I was making preparations for my trip to the United States to meet President Johnson, General Watson called on me at my official residence. Then I expressed to him my desire to visit the Ryukyu Islands. He replied that he would heartily welcome me and co-operate with me to make my visit a truly meaningful one. I am heartily gratified that my desire has been fulfilled and I am very glad to have this opportunity to meet High Commissioner again.

I believe firmly that my visit will be of value not only to the interest of the Ryukyu Islands alone but also for the common interest of the United States and Japan.

I deeply appreciate what General Watson as High Commissioner has done to strengthen the functions of the Government of the Ryukyu Islands as well as for the stabilization of the people's welfare. I remember him modestly telling me when we met in Tokyo that he would not be able to achieve miracles. Yet, my impression here is that the efforts of the High Commissioner has brought about remarkable results and particularly here further deepened the mutual trust and cooperative spirit between the Civil Administration of the Ryukyu Islands and the people of Okinawa. As I have observed them with my own eyes, I should like to offer my heartfelt respect to him. I do hope that the policy lines hitherto implemented will be further promoted. And I hereby promise that the Japanese Government will spare no effort in extending either economic assistance or other forms of co-operation to enable the inhabitants of the Ryukyu Islands to enjoy the high level of welfare obtainable in the mainland as well as a high degree of local autonomy. As it was made clear in the Joint Communique between President Johnson and myself, the importance for peace and security of Far East of the military installations of the United States on the Ryukyu Islands need not be elaborated upon. We appreciate very much the works the people engaged in the military services here are doing.

It is the principal national objective of Japan to seek peace both in foreign and domestic policies. I am determined to work towards bringing about peace and stability in Asia which today is charged with difficult problems. And this effort, I believe, will pave a way eventually towards realizing the ardent desire of all of the Japanese people for the return of the Ryukyu to mainland Japan.

Finally in behalf of the members of the group, I should like to express my deepest gratitude to General Watson and the people in the United States Civil Administration of the Ryukyus for their very warm welcome and for the most thoughtful care with which they have made the arrangements for our visit.

Thank you.

4-1

Embargoed until actual
delivery of the speech
on 20 Aug. 1965

Address by Prime Minister Sato
to the Legislative Members
on August 20, at Tokyu Hotel

It is a great pleasure for me to be given, on the occasion of my visit to Okinawa, an opportunity to deliver an address to the Legislative members.

I wish to tell you, first of all, that I am deeply moved by the warm-hearted welcome shown to me by our nine hundred thousand compatriots in Okinawa.

I should like to pay my highest respects to the strenuous efforts of the officials and the citizens of Okinawa who have arisen from the ruins of the War and reconstructed the Islands to the extent we see here today, despite many unfavourable conditions. In particular, I am deeply impressed by the contribution of the Legislative members, as shown in the case of the enactment of the Fundamental Law of Education which established the principle of "Education as Japanese", toward the reconstruction of the land and the enlargement of the political autonomy of Okinawa to fulfill the desires of the 900,000 inhabitants, overcoming the difficulties arising from the peculiar status of the islands.

I wish to convey to you the strong desire of your one hundred million mainland compatriots for the earliest restoration of administrative control over Okinawa to Japan. I clearly have informed the United States authorities of this desire on such occasions as my visit to that country in January this year. The United States Government has shown its understanding of this desire of ours, and stated that they are looking forward to the day when the desire of the Japanese people can be fulfilled. The United States Government has shown its desire to carry out, in cooperation with our Government, those concrete measures which minimize the stresses that will accompany the anticipated eventual restoration of Okinawa to Japanese administration. The establishment of the Japan-U.S. Consultative Committee and of the Japan-U.S.-Ryukyu Technical Committee is manifestation of this desire.

There is no room for doubt that the system of Japan-United States cooperation which includes Okinawa, stands, in the final analysis, on the premise that Okinawa will be returned to its home country, and that this will ultimately lead to the restoration of administrative control to Japan. Thus, I should like to state here that I will continue to express strongly our national desire for the restoration of administrative control, and to solve this fundamental problem of Okinawa within the framework of Japan-United States cooperation.

At the same time, we must not forget the presence of the pending problems which are equally important. The most important problems Okinawa faces at present are promotion of education, stabilization of the people's living and development of its economy. As I stated at the welcoming reception yesterday, the national government in Tokyo is prepared to strengthen its assistance of various kinds but I also ask that all of you, as legislative members, make your best efforts in your own fields to cope with these problems.

Since assuming the office of High Commissioner last year, Lieut. General Albert Watson II strengthened the Government of the Ryukyu Islands through such measures as the abolition of proclamations and ordinances and the transfer of powers of the Civil Administration to the Government, and, at the same time, steps have been taken to relax the restrictions on overseas travel and to enlarge the freedom of speech, and so forth. The national government, too, welcomes these measures, most of which, we consider, are attributable in a great measure to your unceasing efforts. I pray that all Legislative members will continue to play, with pride, a leading role in bringing about the prosperity of Okinawa.

I am deeply conscious of my mission and responsibility as the one at the helm of the national government. Okinawa, which is a part of Japan, has been separated from the homeland by the force of unavoidable circumstances and has been left in your hands. It is my hope that I may have your understanding and sympathy and that we can walk the same path together for the further development of the Japanese people. I pray that each member of this Legislature may enjoy the best of health and in this way endeavour to work for the greater development of Okinawa.

I deeply appreciate your coming over to meet me here today in the heat of this weather.

Thank you very much.

Embargoed until actual delivery of the speech

Statement of Prime Minister Sato at Nago Ground on August 20

Ladies and gentlemen,

I heartily thank all of you for coming here today to welcome us despite the heat of the day.

Yesterday we visited old battlefields in the southern part of the Island and it wrung my heart to think of the enormous and sad sacrifices you had made. On the trip to there and back and from a helicopter tour around this area, I have seen the green lands and rows of houses in Naha and Nago. This has brought to me a feeling of deep respect for the efforts you have taken to rehabilitate the land, so devastated that no single tree or grass had remained at the end of the war.

I have come here to convey to you the encouragement of your mainland brethren and to express their desire to offer every possible assistance to you, the 900,000 people who made the greatest sacrifice in the last stage of the War in a land which became the scene of the fiercest battle and who have been striving to overcome immense difficulties to rehabilitate and reconstruct your land which has been separated from Japan proper for twenty years after the war as a result of special circumstances. We intend to personally contact your people, see your activities with our own eyes and to come to understand the real situation. I am resolved that the fruits of our study will be duly reflected in the Government's measures toward Okinawa.

The members of my party and I will try to learn as much as possible from our scheduled talks with the representatives of this district here today and with those of Okinawa as a whole back in Naha. In closing, may I wish you all in Nago the best of good health in the future.

Thank you very much.

Embargoed until actual
delivery of the speech

Address by Prime Minister Sato
at Dinner given by the Prime Minister
August 20, Tokyu Hotel

General Watson, the Honorable Mr. Matsuoka, Excellencies,

I am happy to have here with us many distinguished guests tonight. And I should like to express my gratitude to you all for your presence.

Since I arrived at Naha Airport yesterday, I have visited the sites of the battles of the last war, inspected the military installations and other public establishments, and had meetings with the leading figures in various field of activities. Thus, today I completed my fruitful schedule in the main islands of Okinawa.

I believe that the two days' visit here has given me precious experiences which have served a great deal to further deepen my understanding of the present conditions of Okinawa. I am indeed grateful to all concerned for the perfect arrangements they have made to make my visit fruitful.

Since I assume the office of Prime Minister, I have regarded the problem of Okinawa as one of the most important issues. Thus when I met with President Johnson in January this year, I expressed our desire for the restoration to Japan of the administrative control of Okinawa, for the expansion of the autonomy of the inhabitants on the islands of Okinawa as well as for the further promotion of their welfare. The President appreciated the desire of the Government and people of Japan for the restoration of administration to Japan, and stated that he looks forward to the day when the security interests of the Free World in the Far East will permit the realization of this desire. I strongly hope for peace in Far East and for an early restoration of Okinawa. Until this national desire of the Japanese people can be realized, I hope that democratic principles will be further strengthened in this area and that autonomy and welfare will be further promoted.

Since

Since the end of the War, Japan has made a high rate of progress in various fields towards forming a peaceful welfare state, and I believe this was made possible by firmly maintaining a democratic system under which the wills of the people are given every chance for realization. I believe that this system of democracy is prevailing principle which should be applied to the present-day world in general.

Emerging from a complete destruction by the war, Okinawa still has achieved the present conditions. I am deeply impressed by this achievement, which I believe was made possible by the concerted efforts of the Civil Administration of the Ryukyu Islands, the Government of Okinawa and the people in overcoming many a difficuly one by one. Our objective now is to continue this progress and proceed with the works of construction and make the people of the Ryukyu Islands enjoy the fruits of democracy. In this regard, a great deal depends upon your further efforts. The Government of Japan on its part, making my visit a new starting point, will actively extend necessary economic and other assistance.

Thank you very much.

Embargoed until actual
delivery of the speech

Statement of Prime Minister Sato
at Ishigaki Airport on August 21

I heartily thank all of you for coming here today to welcome us in this heat of the day.

We have come here after completing our two day program in the main island.

First, I wish to convey the warmest expressions of encouragement of your brethren on mainland Japan to you who have been striving to overcome many difficulties in the rehabilitation and reconstruction of your land for the twenty-odd years since the last stage of the War. I cannot but pay my deep respects to you for the indomitable spirit with which you have reconstructed your island to the level we see here now.

Today, I am hoping to see with my own eyes what you have done and what you are doing and listen to what you have to say to me, in the hope that we shall, in communicating your wishes to our people at home, be able to promote a sense of identity between Okinawa and mainland Japan.

Although this is my first visit to Ishigakijima, I have some acquaintances in this island. One week before my departure for Okinawa, I was surrounded in my official residence by young little pressmen from this island. These were the junior high school pupils who were visiting mainland Japan for the summer vacation. These boys and girls said to me, "We cannot see Japanese TV programs on our island. Please let us see them." I felt that these yound people were speaking for all the inhabitants of the island. I shall give my immediate attention to the establishment of a TV station which you so earnestly desire, and try to see that you can view the same programs as those back home as soon as possible.

In closing, I sincerely wish all of you continued good health in the future.

Thank you very much.

Embargoed until actual
delivery of the speech

Statement of Prime Minister Sato
at Miyako Airport on August 21

I heartily thank all of you for coming here today to welcome us in this heat of the day.

We have come here after completing our two day program in the main island.

First, I wish to convey the warmest expressions of encouragement of your brethren on mainland Japan to you who have been striving to overcome many difficulties in the rehabilitation and reconstruction of your land for the twenty-odd years since the last stage of the War.

I have been told of the great sacrifices made by the people in Miyako where a Japanese army base was located and that the scars of the War still remain to be healed. I cannot but pay my deep respects to you for the indomitable spirit with which you have reconstructed your island to the level we see here now.

Today, I am hoping to see with my own eyes what you have done and what you are doing and listen to what you have to say to me, in the hope that we shall, in communicating your wishes to our people at home, be able to promote a sense of identity between Okinawa and mainland Japan.

Although this is my first visit to Miyakojima, I have some acquaintances in this island. One week before my departure for Okinawa, I was surrounded in my official residence by young little pressmen from this island. These were the junior high school pupils who were visiting mainland Japan for the summer vacation. These boys and girls said to me, "We cannot see Japanese TV programmes on our island. Please let us see them." I felt that these young people were speaking for all the inhabitants of the island. I shall give my immediate attention to the establishment of a TV station which you so earnestly desire, and try to see that you can view the same programs as those back home as soon as possible.

In closing, I sincerely wish all of you continued good health in the future.

Thank you very much.

Embargoed until actual
delivery of the speech
on 21 Aug. 1965

Remarks by Prime Minister Sato
on leaving Okinawa

Now that my schedule in Okinawa is finished and as I take leave of the islands I should like to express my sincere gratitude for the gracious reception and enthusiastic support Okinawa's 900 thousand compatriots extended to me during my stay here.

As I paid tribute to the war memorials where lie the spirits of 180 thousand brave people who died in the last war, I ponder anew the meaning of the peace we are enjoying today, which is built upon these noble victims.

Okinawa plays an important role in safeguarding peace and freedom in Far East. I indeed appreciate the toils which 900 thousand people of Okinawa endured during the past twenty years. It need hardly be reiterated here that the restoration to Japan of the administrative control of Okinawa is a national desire not only of the people of Okinawa but of the whole Japanese nation, and I pledge that I will exert further efforts to realize this desire. Pending the restoration of administration, the most important and urgent problem is to promote welfare in Okinawa and remove social and economic gaps existing between Okinawa and Japan proper.

During my visit, I keenly felt the need to further promote economic and cultural exchanges between mainland Japan and Okinawa and thereby to deepen the sense of kinship between the peoples of Okinawa and mainland Japan. I shall study the specific methods to materialize this aim.

Let me tell you here that I am determined to endeavour to incorporate into Japan's future policy towards Okinawa the valuable experience and understanding gained through this visit, and to help bring about the happiness of the people of Okinawa.

General Watson, other members of the Civil Administration of the Ryukyu Islands, the Honourable Mr. Matsuoka, the Honourable Mr. Nagamine, other leaders of the Government of the Ryukyu Islands, representatives in the field of industry, culture, education, public welfare and other activities: I thank you all for your kindness shown to me during my three day visit.

I wish the very best health and success of 900 thousand compatriots of Okinawa.

8/11

秘

総理府特連局

総理挨拶の要旨

順	行事(場所)	日次	時間	内容の要旨	所要時間
1	到着ステートメント(空港)	1	10.00	(1)歓迎への感謝 (2)訪沖実現の喜び (3)来島目的(前向き) ㋑本土国民の気持の伝達 ㋺実地視察と体験の成果の今後の施策への反映	約4分
2	歓迎大会(国映館)	1	12.25	(1)到着時の生々しい印象 (2)沖縄住民への感謝(稍々詳細に) (3)復帰問題についての本土政府の基本的姿勢 (4)沖縄の各般のおくれを解消する問題 (5)沖縄の自治権等の拡大の必要性	7分
3	弁務官主催晩餐会(琉球ホテル)	1	20.30	(1)招待への感謝 (2)新弁務官の施策の方針への共感と今後の拡大の要請 (3)我国の対沖縄援助強化の意思表明と協力の要請	5分
4	立法院議員(ホテル)との会見	2	11.30	(1)沖縄復興への称賛とそれに果した立法院の役割の評価(例えば教育基本法等) (2)沖縄問題の現状に対する認識と本土政府の基本的考え方	7分
5	名護町訪問(グラウンド)	2	14.40	(1)歓迎への感謝 (2)南部戦跡巡拝及び沖縄の復興状況を見ての感懐 (3)来島目的 (4)本土政府の基本的姿勢と援助拡大の意志 (5)復帰の悲願達成の日までの健斗の祈願	4分
6	総理主催晩餐会(ホテル)	2	19.30	(1)招待に応じたことへの謝礼 (2)本島での日程無事終了についての協力に対し感謝 (3)2日間の視察における直接的印象と所感 (4)沖縄の現況と日米琉三者協力の成果の称讃 (5)今後の援助強化の意思表明とこれに対する協力要請	5分
7.8	宮古・八重山訪問(空港)	3	10.05 13.00	名護における挨拶に準ずるが特に離島における労苦へのねぎらいを加え、離島を日程に加えた意味を説明する	3.5分
9	離島時(空港)	3	18.20	(1)訪沖中の歓迎と協力に対する感謝 (2)訪沖印象とその成果(特に直接的に) (3)(2)に対応して訪沖成果の今後の施策反映への決定と援助拡大についての具体的重要項目 ※印刷して配布	800字